

平成23年度

授 業 計 画

(シラバス)

東北大学大学院歯学研究科

**If you teach a person what to learn,
you are preparing for the past.**

**If you teach him how to learn,
you are preparing him for life.**

Houle 1967

目 次

1. 歯学研究科の教育理念・教育目標	1
2. 歯学研究科履修内規	2
3. 修了要件及び履修方法	4
4. 国際高等教育研究院について	7
5. 連携講座について	7
6. 平成23年度学事予定表	9
7. 平成23年度授業時間割	10
8. 科目別教育目標及び授業計画【修士課程】	12
9. 科目別教育目標及び授業計画【歯学履修課程（博士課程）】	60
10. 歯学部・歯学研究科教員名簿	147
11. 歯学部・歯学研究科学生相談室	153
12. オフィスアワー	154
13. 歯学部・歯学研究科建物案内	156

1. 歯学研究科の教育理念・教育目標

東北大学大学院歯学研究科は、独創的かつ先端的な研究を推進することにより、歯学の進歩・発展に寄与し、人類の健康と福祉の向上に貢献することをその理念とする。本研究科における研究・教育の目的は、すべての事象に対して恒に「考究」する科学心を養うことであり、高度の専門知識と技術を持ち高い見識を有する研究・教育者および臨床歯科医師を、地域社会、国内のみならず、広く世界に向けて輩出することにある。具体的な目標は以下の通りである。

- (1) 本研究科が、我が国における基幹的歯学教育・研究機関の一つであること、また、東北地区における唯一の国立大学法人歯学教育・研究機関であるとの自覚から、地域における中核拠点大学としての役割を果しつつ、国際的な学術拠点大学として世界をリードする歯学教育・研究を推進し、優れた歯学教育・研究者を育成する。
- (2) 「臨学一体」を体現する臨床と基礎研究の有機的な連携のもと、東北大学の伝統である真の「実学」の継承・発展を図る。
- (3) 東北大学という総合大学の特徴を生かし、新しい視点に立った学際的、萌芽的、独創的な研究を積極的に推進する。
- (4) 社会に対して広く門戸を開放し、社会人を積極的に受け入れ、科学心と高度な専門知識を持つ職業人の育成に努める。

2. 歯学研究科履修内規

制定 平成17年12月27日

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学大学院歯学研究科規程（昭和47年規第24号。以下「規程」という。）第4条第3項の規定に基づき、東北大学大学院歯学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目、単位数及び履修方法について定めるものとする。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第2条 本研究科の授業科目、単位数及び履修方法は、修士課程にあつては別表第1に、歯学を履修する課程（以下「歯学履修課程」という。）にあつては別表第2による。

附 則

- 1 この内規は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成16年度以前に入学した者の授業科目、単位数及び履修方法については、この内規の規定にかかわらず、この内規施行の日の前日において改正前の規程により適用されていた授業科目、単位数及び履修方法とする。

別表第1（修士課程）

区分	授業科目	単位数
必修科目	歯学概論	2
	歯科臨床概論	1
	病院見学実習	1
	研究技術トレーニング	3
	専門歯科学	4
	修士論文特別研修	7
選択科目	歯科生物学	2
	歯科病態学	2
	医歯用生体材料学	2
	医歯用機器論	2
	食品科学	2
	国際歯科保健学	2
	社会歯科学	2
	総合歯科学	2
	口腔育成学	2
	口腔修復・回復学	2
	顎口腔機能学	2
	障害者歯科学	2
	高齢者歯科学	2
	感染予防歯科学	2
	顎口腔再建学	2
	口腔免疫病態制御学※	2
	長寿口腔科学※	2
	口腔健康科学特論	2
がん口腔ケア特別研修	1	

備考 学生は、その他本研究科が許可した授業科目を履修することができる。

※連携講座・・・主任指導教員と相談の上履修すること。

別表第2 (歯学履修課程)

	授業科目							
	歯学特論	単位数	歯学演習	単位数	実験技術 トレーニングコース	単位数	博士論文 特別研修	単位数
口腔生物学	口腔生化学	3	口腔生化学	2	口腔生化学	2	口腔生物学	9
	歯科薬理学	3	歯科薬理学	2	歯科薬理学	2		
	口腔微生物学	3	口腔微生物学	2	口腔微生物学	2		
	歯内歯周治療学	3	歯内歯周治療学	2	歯内歯周治療学	2		
	口腔分子制御学	3	口腔分子制御学	2	口腔分子制御学	2		
口腔機能形態学	口腔器官構造学	3	口腔器官構造学	2	口腔器官構造学	2	口腔機能形態学	9
	口腔生理学	3	口腔生理学	2	口腔生理学	2		
	口腔システム補綴学	3	口腔システム補綴学	2	口腔システム補綴学	2		
	加齢歯科学	3	加齢歯科学	2	加齢歯科学	2		
	総合診療学	3	総合診療学	2	総合診療学	2		
口腔修復学	歯科生体材料学	3	歯科生体材料学	2	歯科生体材料学	2	口腔修復学	9
	歯科保存学	3	歯科保存学	2	歯科保存学	2		
	咬合機能再建学	3	咬合機能再建学	2	咬合機能再建学	2		
口腔保健発育学	予防歯科学	3	予防歯科学	2	予防歯科学	2	口腔保健発育学	9
	小児発達歯科学	3	小児発達歯科学	2	小児発達歯科学	2		
	顎口腔矯正学	3	顎口腔矯正学	2	顎口腔矯正学	2		
	口腔障害科学	3	口腔障害科学	2	口腔障害科学	2		
	国際歯科保健学	3	国際歯科保健学	2	国際歯科保健学	2		
口腔病態外科学	口腔病理学	3	口腔病理学	2	口腔病理学	2	口腔病態外科学	9
	口腔診断学	3	口腔診断学	2	口腔診断学	2		
	顎顔面外科学	3	顎顔面外科学	2	顎顔面外科学	2		
	口腔外科学	3	口腔外科学	2	口腔外科学	2		
	歯科口腔麻酔学	3	歯科口腔麻酔学	2	歯科口腔麻酔学	2		
顎口腔創建学	顎口腔形態創建学	3	顎口腔形態創建学	2	顎口腔形態創建学	2	顎口腔創建学	9
	顎口腔機能創建学	3	顎口腔機能創建学	2	顎口腔機能創建学	2		
口腔腫瘍病態学	口腔腫瘍病態学	3	口腔腫瘍病態学	2	口腔腫瘍病態学	2	口腔腫瘍病態学	9
歯科再生歯工学	歯科再生歯工学	3	歯科再生歯工学	2	歯科再生歯工学	2	歯科再生歯工学	9
難治疾患・口腔免疫学	難治疾患・口腔免疫学	3	難治疾患・口腔免疫学	2	難治疾患・口腔免疫学	2	難治疾患・口腔免疫学	9
口腔免疫病態制御学※	口腔免疫病態制御学	3	口腔免疫病態制御学	2	口腔免疫病態制御学	2	口腔免疫病態制御学	9
長寿口腔科学※	長寿口腔科学	3	長寿口腔科学	2	長寿口腔科学	2	長寿口腔科学	9
国際高等研究教育院	口腔健康科学特論 (指定授業科目)	2						
がん口腔ケア					口腔がん健診特別研修	1		

備考 学生は、その他本研究科が許可した授業科目を履修することができる。

※連携講座・・・主任指導教員と相談の上履修すること

3. 修了要件及び履修方法

修了要件

本研究科修士課程を修了しようとする者は、同課程に2年以上在学し、歯学研究科履修内規別表第1の授業科目のうちから30単位以上(必修科目18単位及び選択科目12単位以上)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

また、歯学履修課程(博士課程)を修了しようとする者は、同課程に4年以上在学し、歯学研究科履修内規別表第2の授業科目のうちから30単位以上(歯学特論9単位以上、歯学演習6単位以上、実験技術トレーニングコース6単位以上及び博士論文特別研修9単位)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

ただし、在学期間に関しては、本研究科委員会が別に定めるところにより、優れた研究業績を上げた者と認めた場合には、修士課程は1年以上、博士課程は3年以上在学すれば足りるものとする。

また、職業を有している等の事情によって、標準修業年限(修士課程は2年、博士課程は4年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願った者については、審査の上、これを許可することがある。この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料支払総額は、標準修業年限による修了者と同額になる。

履修方法

I 修士課程

1. 必修科目の履修について

- ①歯学概論、歯科臨床概論及び病院見学実習は、1年次において、授業計画表により履修すること。
- ②研究技術トレーニングは、1年次又は2年次において、3つ以上の分野が開講するコースを選択履修(1分野のコースにつき1単位、合計3単位以上)すること。
- ③専門歯科学は、2年次において、主任指導教員の指示により履修すること。
- ④修士論文特別研修は、1～2年次をとおして、主任指導教員の指示により履修すること。なお、1年次において、「大学院研究基礎論」の受講及び研究テーマの内容をまとめた「研究テーマ選定要旨」の提出が求められるが、「研究テーマ選定要旨」の作成は修士論文特別研修の一部に含まれる。「研究テーマ選定要旨」の作成・提出の詳細については、後日周知する。

2. 選択科目の履修について

選択科目は、6科目12単位以上を選択履修すること。各コースの選択履修例を下表に示す。

	①コデントタル	②口腔保健	③開発
歯科生物学	○	○	○
歯科病態学	○	○	○

医歯用生体材料学	○		○
医歯用機器論	○		○
食品科学	○		○
国際歯科保健学	○	○	○
社会歯科学	○	○	○
総合歯科学	○	○	○
口腔育成学	○	○	
口腔修復・回復学	○	○	○
顎口腔機能学	○		
障害者歯科学	○	○	
高齢者歯科学	○	○	○
感染予防歯科学	○	○	
顎口腔再建学	○	○	○
口腔免疫病態制御学*			
長寿口腔科学*			
口腔健康科学特論**			
がん口腔ケア特別研修			

連携講座*及び国際高等研究教育院**指定授業科目：制約があるので主任指導教員と相談の上選択すること。

3. 履修科目の届出について

選択科目及び研究技術トレーニングの履修科目は、所定の期日まで教務係へ届け出ること。届出の詳細については、オリエンテーションで説明する。

II 歯学履修課程（博士課程）

1. 歯学特論、歯学演習及び実験技術トレーニングコースは、自分の所属する大講座の中の1分野の科目を必ず含む、合計3つ以上の分野が開講する科目をそれぞれ履修すること。

歯学特論 1分野の講義につき3単位、合計9単位以上

歯学演習 1分野の演習につき2単位、合計6単位以上

実験技術トレーニングコース 1分野のコースにつき2単位、合計6単位以上

2. 博士論文特別研修は、各大学院生が、所属する各分野において、博士論文の作成に関わる専門知識を修得し、独自の研究を行い、論文を作成することに対して与えられる（1年次1単位、2年次4単位、3年次4単位、計9単位）本研修は、研究内容及び研究手段が大学院学生ごとに異なるため共通のカリキュラムは存在しないが、1年次においては、「大学院研究基礎論」の受講及び「テーマ選定会議」での発表と、それに至るまでの専門知識の修得に対して1単位が与えられる。「テーマ選定会議」の詳細については、後日周知する。2年次から3年次においては、分野ごとに個別に行われている文献抄読会、症例検討会、研究セミナー、研究経過報告会、診療等に参加し、また、各分野が関連する専門学会への参加や発表を通して専門知識を修得し、これらの研究活動に対して8単位が与えられる。その後、4年次において、それまでに得ら

れた研究成果を 博士論文として公表することになる。なお、卓越した研究であり、研究の進捗状況が速い場合には、研究科委員会の判断により、2年以上在籍した者に対して、3年次で修得する単位を修得見込として、博士論文の提出を許可することがある。

3. 単位修得について

- ①歯学特論、歯学演習および実験技術トレーニングコースに関しては、1年間に履修できる科目数を各々3科目までとする。
- ②歯学特論、歯学演習および実験技術トレーニングコースについては、3年次までに所定の単位を修得することも可とする。例えば、1年次に歯学特論6単位、歯学演習、実験技術トレーニングコース各2単位、2年次に歯学特論3単位、歯学演習、実験技術トレーニングコース各2単位、3年次に歯学演習、実験技術トレーニングコース各2単位といった様に2～3年間に分けて1コースないし2コースずつを修得することも可とする。単位修得の標準的な学年割振表は下記に示すとおりである。

	1年次	2年次	3年次	4年次	合 計
歯学特論	9				9
歯学演習	4	2			6
実験技術トレーニングコース	2	4			6
博士論文特別研修	1	4	4		9
合計単位数	16	10	4		30

4. 履修科目の届出について

歯学特論、歯学演習及び実験技術トレーニングコースの履修科目は、所定の期日まで教務係へ届け出ること。届出の詳細については、オリエンテーションで説明する。

III 英語における履修について

本研究科は外国人留学生等を広く受け入れていることから、各授業科目については英語による履修も可能とする。(履修の際は授業担当教員に相談すること)

4. 国際高等研究教育院について

(博士課程用)

東北大学国際高等研究教育院は、異分野の融合による新しい研究分野を拓き、それを学ぶことで、卓越した知識と創造的な「総合知」の素養を持った世界トップレベルの若手研究者養成を支援する大学院教育組織である。本院では、12のグローバルCOEプログラムで得られた成果を有機的に連携することで5つの新たな分野融合型の研究領域を設定し、世界トップレベルの若手研究者を養成することで、既存の研究科や研究所の機能を補完・強化することを目指す。

本院の博士研究教育院生として選抜されるためには、博士課程1年次終了時に本院へ応募し、規定の選抜審査を受けることが求められる。選抜された学生は、博士課程2年次より奨学金支給、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援のほか、研究計画に見合った研究費や研究環境又は国際インターンシップのための助成等を受けることができる。院生は、本研究科の指定授業科目である口腔健康科学特論（授業計画参照）の受講が義務づけられる。本特論では、歯学、工学、材料学などを融合した口腔健康科学を学ぶ。

(修士課程用)

東北大学国際高等研究教育院は、異分野の融合による新しい研究分野を拓き、それを学ぶことで、卓越した知識と創造的な「総合知」の素養を持った世界トップレベルの若手研究者養成を支援する大学院教育組織である。本院では、12のグローバルCOEプログラムで得られた成果を有機的に連携することで5つの新たな分野融合型の研究領域を設定し、世界トップレベルの若手研究者を養成することで、既存の研究科や研究所の機能を補完・強化することを目指す。

本院の修士研究教育院生として選抜されるためには、大学院歯学研究科修士課程1年次に本院の指定授業科目を6単位以上修得し、さらに、修士課程1年次終了時に本院へ応募し、規定の選抜審査を受けることが求められる。選抜された学生は、修士課程2年次より奨学金、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援を受けることができる。なお、修士研究教育院生は、原則として博士課程への進学を予定しているものを対象とする。

5. 連携大学院等について

I 口腔免疫病態制御学講座（連携講座）

歯学研究科では新世代の歯学として「インターフェース口腔健康科学」を推進している。その研究領域の一つであるホスト・パラサイト・インターフェース研究教育に関しては、口腔生物学講座が中核となって我国の歯学領域で先駆的な研究を展開している。口腔での免疫応答は、生体防御反応の理解に非常に重要であり、また、免疫応答の異常による唾液腺や口腔粘膜の慢性炎症は患者のQOLを大きく損い、その制御・克服が課題となっている。

このような状況を踏まえ、本研究科は国立国際医療センター研究所 (<http://www.imcj.go.jp/rese/top/index.html>) との基本協定を締結し、免疫応答に関する口腔疾患病態の理解及びその制御に関する研究を推進するとともに、高度な専門的人材を養成するため、同研究所の研究者等を教員とする連携講座「口腔免疫病態制御学講座」を設置している。

II 長寿口腔科学講座（連携講座）

超高齢化社会を迎えた日本において、高齢者対策の基盤を構築するための研究・教育が不可欠である。しかし、大学における長寿科学研究の基盤、とりわけ長寿口腔科学研究の基盤は十分に確立されていないのが現状である。現代日本の社会動向に適応し、国民の健康寿命の延伸および生活の質の向上に資する長寿口腔科学の基盤を確立するとともに、同分野の知の創造・実践を担う人材を育成することは喫緊の要事である。

このような状況を踏まえ、本研究科は国立長寿医療センター研究所 (<http://www.nils.go.jp/>) との基本協定を締結し、長寿口腔科学研究を推進するとともに、同分野における高度な専門的人材を養成するため、同研究所の研究者等を教員とする連携講座「長寿口腔科学講座」を設置している。

III 分子イメージング教育特別コース

医学系、歯学、薬学、工学の各研究科が連携し、サイクロトロン・R Iセンター及び放射線医学総合研究所にその拠点を置き、研究成果に裏打ちされる学際的な教育研究体制による分子イメージング研究人材育成のためのコースである。歯学研究科では、歯科領域における分子イメージング研究を指導し、PET を活用できる研究者やその専門医等の育成を目指す。医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科あるいは工学研究科の大学院修士課程もしくは博士課程に所属する学生は、各研究科相互連携による本コース授業科目を修得することができる。

6. 平成23年度歯学部・歯学研究科学事予定表

区分	日程		
	学部		大学院
	全学教育科目	専門教育科目	
入学式	(震災の影響により中止)		
オリエンテーション(1年)	5月6日(金)		4月25日(月)
1学期授業	5月9日(月)～8月12日(金) 9月5日(月)～9月9日(金)	5月～9月	修士:5月～9月 博士:5月～9月
前期分授業料免除願 提出期限	5月31日(火)		
履修カード提出期間	5月9日(月)～5月20日(金)	—	—
履修登録	5月9日(月)～5月20日(金) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	5月中旬(予定)
履修確認・訂正等	5月23日(月)～5月27日(金) Web確認		
前期分授業料納付期限	未定(後日掲示等で通知)		
学生定期健康診断	5月		
創立記念日(休業日としない)	6月22日(水)		
夏季休業 学期末休業	8月15日(月)～9月2日(金)	歯学部学年暦参照	—
補講及び試験	9月12日(月)～9月22日(金)		—
学期末休業	9月26日(月)～9月30日(金)		—
大学院入学試験(1次)	—	—	8月下旬
2学期授業(冬期休業前まで)	10月3日(月)～12月22日(木)	10月3日(月)～12月22日(木) (1年～4年) 9月1日(木)～11月4日(金)及び 11月21日(月)～12月16日(金) (5年) 8月17日(月)～10月21日(金) (6年)	10月～12月
後期分授業料免除願 提出期限	9月中旬(願書配付期間8月～9月)		
履修カード提出期間	10月3日(月)～10月14日(金)	—	—
履修登録	10月3日(月)～10月14日(金) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	—
履修確認・訂正等	10月17日(月)～10月21日(金) Web入力		
医学部・歯学部 合同慰霊祭	10月中旬予定		
研究テーマ選定会議 (大学院博士1年)	—	—	9月～10月
博士論文予備審査 (大学院博士4年)	—	—	10月
後期分授業料納付期限	10月中旬までに銀行口座へ		
大学祭	11月3日(木)～11月5日(土)		
臨床実習修了認定試験 (6年)	—	10月24日(月)～11月4日(金)	—
5年生登院資格発表	—	11月17日(木)予定	—
博士論文提出締切 (大学院修士2年・博士4年)	—	—	12月上旬
大学院入学試験(2次)	—	—	12月下旬
冬期休業	12月26日(月)～1月5日(木)	12月23日(金)～1月3日(火) (1年～4年)	—
2学期授業(冬期休業後)	1月6日(金)～1月30日(月)	1月4日(水)～1月31日(火) (1～4年)	1月～3月
大学入試センター試験 実施に伴う休講	1月13日(金)	—	—
補講及び試験	1月31日(火)～2月10日(金)	2月1日(水)～2月14日(火) (1年～4年)	—
学部入試(AO)	—	2月中旬予定	—
卒業・修了認定発表	2月16日(木)予定		
学部入試(前期日程)	—	2月25日(土)・26日(日)	—
学期末休業	2月13日(月)～	2月15日(水)～ (1～4年)	—
進級判定発表	3月22日(木)予定		
学位記授与式	—	3月27日(火)	

※日程は、予定であり変更の場合もあるので注意すること。

7. 平成23年度授業時間割

大学院歯学研究科(修士課程)授業時間割

<前期(5~9月の15週。「歯学概論」のみ4月上旬~)>

講時	月	火	水	木	金
1 8:50 ~ 10:20	歯学概論 (4~5月)				歯科臨床概論 病院見学実習 (6~7月)
2 10:30 ~ 12:00					
3 13:00 ~ 14:30	歯科生物学	歯科病態学	総合歯科学	食品科学	国際歯科 保健学
4 14:40 ~ 16:10	①グループ 研究技術 トレーニング	②グループ 研究技術 トレーニング	③グループ 研究技術 トレーニング	④グループ 研究技術 トレーニング	⑤グループ 研究技術 トレーニング
5 16:20 ~ 17:50					

<後期(10~2月の15週)>

講時	月	火	水	木	金
1 8:50 ~ 10:20					
2 10:30 ~ 12:00	医歯用 生体材料学	医歯用 機器論	顎口腔機能学	感染予防 歯科学	顎口腔再建学
3 13:00 ~ 14:30	社会歯科学	口腔育成学	口腔修復・ 回復学	障害者歯科学	高齢者歯科学
4 14:40 ~ 16:10	①グループ 研究技術 トレーニング	②グループ 研究技術 トレーニング	③グループ 研究技術 トレーニング	④グループ 研究技術 トレーニング	⑤グループ 研究技術 トレーニング
5 16:20 ~ 17:50					

* 各授業は、原則として上記時間割表により行うが、詳細は授業計画表により確認のうえ、担当教員の指示を仰ぐこと。

* 専門歯科学(4単位)及び修士論文特別研修(7単位)は、所属分野で実施する。

* 研究技術トレーニングは、各分野を5グループに分け、前期又は後期のいずれかの所定の時間に実施する。(原則として博士課程の「実験技術トレーニングコース」と同時開講となる。)

①グループ: 口腔生物学講座 + 総合歯科診療部

②グループ: 口腔機能形態学講座 + 協力講座(口腔腫瘍病態学、生体再生歯工学、難治疾患・口腔免疫学)

③グループ: 口腔修復学講座 + 顎口腔創建学講座

④グループ: 口腔保健発育学講座

⑤グループ: 口腔病態外科学講座 + 連携講座(口腔免疫病態制御学、長寿口腔科学)

大学院歯学研究科歯学履修課程(博士課程)授業時間割

＜前期(5～9月の15週)又は後期(10～2月の15週)＞

講時		月	火	水	木	金
1	8:50 ～ 10:20	①グループ 歯学特論	②グループ 歯学特論	③グループ 歯学特論	④グループ 歯学特論	⑤グループ 歯学特論
	10:30 ～ 12:00					
3	13:00 ～ 14:30	①グループ 歯学演習	②グループ 歯学演習	③グループ 歯学演習	④グループ 歯学演習	⑤グループ 歯学演習
4	14:40 ～ 16:10	①グループ 実験技術 トレーニング コース	②グループ 実験技術 トレーニング コース	③グループ 実験技術 トレーニング コース	④グループ 実験技術 トレーニング コース	⑤グループ 実験技術 トレーニング コース
	16:20 ～ 17:50					

* 各分野は、前期又は後期のいずれかに、週2コマ(×10週程度)歯学特論、週1コマ(×15週)歯学演習及び週2コマ(×15週)実験技術トレーニングコースを実施する。開講時間帯、開講時期は、各分野を5グループに分け、前期又は後期のいずれかの所定の時間に実施する。

* 各授業は、原則として上記時間割表により行うが、詳細は授業計画表により確認のうえ、担当教員の指示を仰ぐこと。

①グループ: 口腔生物学講座 + 総合歯科診療部

②グループ: 口腔機能形態学講座 + 協力講座(口腔腫瘍病態学、生体再生歯工学、難治疾患・口腔免疫学)

③グループ: 口腔修復学講座 + 顎口腔創建学講座

④グループ: 口腔保健発育学講座

⑤グループ: 口腔病態外科学講座 + 連携講座(口腔免疫病態制御学、長寿口腔科学)

8. 科目別教育目標及び授業計画〔修士課程〕

授業科目	歯学概論		授業担当	佐々木 啓一		
単位数	2		責任者	歯学研究科長		
曜日一時限	月－1・2	対象年次 学期	修士課程1年次	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	歯学、歯科医療、医の倫理、インフォームド・コンセントなどについて触れるとともに、広範多岐にわたる基礎歯学及び臨床歯学の領域を各分野の教員が理解しやすく解説し、歯学に対する造詣を深める。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯学とは			佐々木研究科長	
	2	歯科治療とは			島内総括副病院長	
	3	歯と骨の発生と再生（授業日程説明等）			笹野 泰之	
	4	口腔生態系という小宇宙			高橋 信博	
	5	う蝕と歯周病の細菌学			高田 春比古	
	6	痛みと神経			林 治秀	
	7	歯・顎骨・顔面の欠損の病態と治療			佐々木 啓一	
	8	歯科生体材料学			高田 雄京	
	9	虫歯と保存修復治療			小松 正志	
	10	口の病気をいかに予防するか			小関 健由	
	11	歯科矯正治療			山本 照子	
	12	口腔外科学序論			越後 成志	
	13	歯科口腔麻酔学			正木 英二	
	14	総合歯科診療学			菊池 雅彦	
アドバイス	・ 5月9日（月）～6月20日（月）の7週で実施する。 （1週あたり2回実施。） 必ず出席すること。					
テキスト・教材・参考書等	担当教員が適宜紹介する。					
成績評価の方法	担当教員の評価に基づいて教務委員会で判定する。					

授業科目	歯科臨床概論 病院見学実習		授業担当	島内 英俊		
単位数	各 1		責任者	総括副病院長		
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	修士課程 1 年次	講義室名	各診療科	
授業の目標 並びに概要	東北大学病院歯科部門の各診療科・部を早期に臨床見学することにより、歯科が対象とする疾患について理解する。歯科治療の目的である患者への貢献、歯科疾患の予防と歯・口を中心とした健康増進等について考える機会を持つとともに、実地に体得していくことを目的としている。これにより将来の歯科医師としての自覚が早期に確立されるとともに、自らの健康に対する意識も高められることを期待する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション (6月27日(月)8:50～ B3講義室で行う)			菊池雅彦 副病院長	
	2～7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6つのグループに分かれて下記診療科を見学する。 (7月1日(金)～8月5日(金)の6週。 7月15日を予備日とする。) ① 保存修復科/歯内歯周療法科 ② 咬合修復科/咬合回復科 ③ 歯科顎顔面外科/歯科口腔外科 ④ 総合歯科/口腔機能回復科(高齢者歯科) ⑤ 小児歯科/障害者歯科/矯正歯科 ⑥ 予防歯科/口腔診断科 				
アドバイス	(1) 清潔な白衣を着用し、身だしなみに気をつけること。 (2) 各診療科では私語を慎み、騒がないこと。 (3) 開始時間を厳守し、決して遅刻しないこと。					
テキスト・教材・参考書等	オリエンテーション時にシラバスを配布する。 清潔な白衣を用意しておくこと。					
成績評価の方法	担当教員の評価を集計して教務委員会で判定する。					

授業科目	研究技術トレーニング 口腔生化学	授業担当者 (責任者に ○)	○佐藤 拓一 中條 和子 鷲尾 純平
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 4講時	場所	基礎研究棟8階 口腔生化学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 主に口腔生化学分野での研究に従事する大学院生を対象に、口腔生化学（特に口腔生態系、口腔バイオフィルムおよび齲蝕・歯内疾患・歯周病・口臭症などの代表的口腔疾患）に関する研究を進める上で必要な研究技術を修得することを目的とする。</p> <p>【内容】 基本的な生化学的手法および分子生物学的手法（PCR法、Cloning法、Sequence法を含む）、さらにはプラーク微生物の取り扱い方法、嫌気ボックスの取り扱い方法を含んだ嫌気実験法などを修得する。</p> <p>本研究技術トレーニングでは、原則として本分野での研究従事を前提としていることに留意すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ決定する。		

授業科目	研究技術トレーニング 歯科薬理学	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 吉田 卓史 窪田 寿彦
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の 上決定	場所	基礎研究棟5階 歯科薬理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 薬物や生理活性物質の作用、作用機序を理解するための実験手法としての分子生物学的、電気生理学的、薬理学的実験手法を習得し自らの研究を推進する。</p> <p>【内容】 哺乳動物由来の細胞培養、PCR法、クローニング法、シーケンス法、遺伝子導入法、パッチクランプ法、細胞内Ca²⁺濃度測定法の理論を理解した上でそれぞれの技術を習得する。また、酵素反応速度論の理解とそれに基づく濃度—反応関係のコンピューターを用いた解析方法を習得する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組で評価する。		
備 考			

授業科目	研究技術トレーニング 口腔微生物学	授業担当者 (責任者に○)	○高田春比古 力石秀実 他
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者 と相談の上決定	場所	口腔微生物学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 微生物学・免疫学並びに関連する領域の基本的な実験技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】 微生物学・免疫学並びに関連する領域の基本となる実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定する。ちなみに、口腔微生物学分野の研究に頻用される実験手技としては、各種細胞培養、ELISA 分析、RT-PCR、Real-time PCR、Western blotting、フローサイトメトリー、免疫染色、動物実験（主としてマウス）の各種技法等がある。 修士課程の受講者は上記の基本部分を学ぶことができる。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組を評価する。無論、約束の時間に出席することが前提		
備 考	受講制限があるので、受講者は予め責任者の高田・力石と相談のこと		

授業科目	研究技術トレーニング 歯内歯周治療学	授業担当者 (責任者に○)	○島内 英俊 根本 英二 他
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者 と相談の上決定	場所	歯内歯周学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯内治療学・歯周治療学及びそれらに関連する領域で必須の実験技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】 歯内治療学・歯周治療学及びそれらに関連する領域の基本となる実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定するが、当分野では下記の内容を予定している。なお修士課程は博士課程と同時開講とし、基本技術と理論を習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種細胞培養 ② ELISA 法 ③ RT-PCR 及び Real-time PCR ④ Western blotting ⑤ フローサイトメトリー ⑥ 動物実験（マウス及びラット）の各種技法 		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組を評価する。無論、約束の時間に出席することが前提		
備 考	受講制限があるので、受講者は予め責任者の島内と相談のこと		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔分子制御学	授業担当者 (責任者に○)	○菅原 俊二 黒石 智誠
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 月曜日 4 講時	場所	口腔分子制御学分野実験室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 ウェスタンブロット法の基礎を習熟し、研究に活用できる技術を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェスタンブロット法の基本原理を習熟する（担当：菅原） ・実際にウェスタンブロットを行い、技術を習得する（担当：黒石） ・研究への応用について討論する（担当：菅原、黒石） 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、実習およびレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更することもある。		

授業科目	研究技術トレーニング 総合歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○菊池 雅彦 下西 充 岩松 正明
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 4講時	場所	総合歯科診療部医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科医学教育、とりわけ卒前・卒後の臨床歯科医学教育に関する理論と実践の方法について習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医学教育の歴史 2. 歯科医学教育の理論 3. 歯科医学教育の目標 4. 歯科医学教育の方法 5. 歯科医学教育の評価 		
テキスト・教材・参考書等	資料を配付する。		
成績評価の方法	レポート等による。		
備 考	開講時間・開講場所は別途通知する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔器官構造学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鈴木 敏彦 狩野 充浩
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	受講者と相談の上決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 人体の構造について、各種器械、計測ソフトを用いて、肉眼的、組織学的な各種形態計測方法を習得し、形態計測から得られたデータの解釈について理解する。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計測器具と計測ソフトの説明 2. 頭蓋および頭蓋骨の計測 3. 歯および歯列の計測 4. 骨梁構造の計測 5. 計測者内誤差、計測者間誤差の評価と検討 6. 計測値の統計処理（基礎統計量、因子分析、判別分析など） 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔生理学	授業担当者 (責任者に○)	○林 治秀
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 4・5 講時	場所	口腔生理研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 最近歯学研究にとっても重要性を増しているラット等動物を使用した in vivo の状態での神経生理学研究法について学ぶことを目的とする。特に体性感覚を中心とした感覚生理学研究法をとりあげる。</p> <p>【内容】 (1) 実験動物麻酔法－1－ (以下担当：戸田孝史) (2) 実験動物麻酔法－2－ (3) 金属記録電極作製法－1－ (4) 金属記録電極作製法－2－ (5) 金属記録電極作製法－3－ (6) 金属記録電極作製法－4－ (7) 動物標本作製法 (担当：林) (8) 末梢神経刺激法 (以下担当：戸田孝史) (9) 末梢神経記録法－1－ (10) 末梢神経記録法－2－ (11) 中枢神経刺激法 (以下担当：林) (12) 中枢神経記録法 (13) データ解析法 (14) 灌流固定法 (15) 組織切片作製法</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	動物実験は長時間に亘ることが多いので、開講時間は受講者と相談のうえ変更する。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔システム補綴学	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 小川 徹 横山 政宣 埴 総司 依田 信裕
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 4講時	場所	口腔システム補綴学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 補綴歯科学に関わる研究を遂行するうえで必要となる実験手法を、実習を通して理解・修得し、研究に活用できる。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体内での力学的計測 (担当：依田 信裕) <ol style="list-style-type: none"> ① ストレインゲージ・圧トランスデューサによる計測 ② 歯冠内3次元力測定 ③ 義歯床下圧の測定 2. 骨シンチグラフィによる骨代謝活性の測定 (担当：横山 政宣) 3. 咀嚼・嚥下機能の計測 (担当：埴 総司) <ol style="list-style-type: none"> ① 筋電図 ② 舌運動 4. プロスペクティブ・クリニカル・スタディ (担当：小川 徹) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 加齢歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 服部 佳功 他
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	加齢歯科学分野研究室2 他
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 加齢歯科学の研究手法のうち顎口腔機能の評価に関わる下記内容の実験技術の習得を目的とし、ワークショップ形式のトレーニングを実施する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下顎運動の記録、分析、評価 ・筋電図の記録、分析、評価 ・咀嚼機能の記録、分析、評価 ・咬合状態の記録、分析、評価 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 歯科生体材料学	授業担当者 (責任者に○)	○高田 雄京 菊地 聖史 高橋 正敏
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期(5~9月)中または 後期(10月~2月)中の3日	場所	基礎研究棟5階 歯科生体材料学分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 走査型電子顕微鏡による試料観察方法、電子線マイクロアナライザーによる元素分析方法の研究技術を研究テーマに合わせてトレーニングする。</p> <p>【内容】 走査型電子顕微鏡の原理 試料の作製 観察方法 研究試料の観察</p> <p>電子線マイクロアナライザーの原理 試料の作製 元素分析方法 定性分析 定量分析 マッピング分析</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	開講日は受講者と相談の上決める。開講日には終日出席が可能なこと。		

授業科目	研究技術トレーニング 歯科保存学	授業担当者 (責任者に○)	小松正志 ○笹崎弘己
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 4 講時	場所	歯科保存学分野 4 研
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>(目的) レジンやインレー修復物の臨床成績を評価する上で重要な、臨床例のレプリカを製作し、走査型電子顕微鏡にて観察し評価する方法を修得する。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> レプリカの製作 レプリカ製作に必要な材料の特性と臨床におけるレプリカ製作の手順を講義した後、レプリカ製作を実習する。 走査型電子顕微鏡の使用法の習得 走査型電子顕微鏡の使用法、メンテナンス法を実習する。 走査型電子顕微鏡によるレプリカ試料の観察 走査型電子顕微鏡にてレプリカ試料を観察し、評価法を実習する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	開講時間等は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 咬合機能再建学	授業担当者 (責任者に○)	○依田正信 他
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 4, 5講時	場所	咬合機能再建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>目的 クラウン・ブリッジに関する研究遂行のために必要な基礎的研究手段を習得する。</p> <p>内容</p> <p>1. 材料試験法 静的試験・・・圧縮試験を用いた強度試験 粘性特定・・・回転粘度計を用いた計測 表面計測・・・表面粗さ計を用いた粗さ計測</p> <p>2. 次元画像処理ソフトウェアの操作 3次元形状計測値を用いて、3次元形状計測・表示を行う</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席とレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 予防歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由 田浦 勝彦
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期木曜日 4 講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 予防歯科学を理解する上で重要な実験手法を学び、実験に対する基本的な考え方を理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期う蝕の診断法 ・ 環境の測定法 ・ 大気汚染の測定法 ・ 水の環境衛生面の測定法 ・ 生体測定 (1月 小関教授) ・ 歯口清掃法 ・ 口腔診査法 ・ フッ化物の応用法 ・ 齲蝕活動性試験と出血試験 ・ 歯周疾患の診査法 (6月 小関教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 小児発達歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○福本 敏 他
単位数	1		
開講 曜日・講義	後期(10月) 木曜日 4講時	場所	未定
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 歯の再研究を実施するための、基本的な口腔組織由来細胞の分離培養の技術を習得する。</p> <p>【内容】 歯胚よりエナメル上皮細胞の分離と培養 歯胚より歯原性間葉細胞(象牙芽細胞、歯髓細胞を含む)の分離と培養 歯胚の器官培養法の実践 顎下腺の器官培養と、分岐形成の評価</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 顎口腔矯正学	授業担当者 (責任者に○)	○山本照子 他
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者と 相談の上決定	場所	顎口腔矯正学分野研究室 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科矯正学並びに関連する領域で必須の検査・分析方法を習得すること、並びに、矯正治療に伴う生体反応についての基盤的研究を遂行する為の基本的な技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】 歯科矯正学及びそれに関連する領域の基本となる検査・分析・実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定するが、当分野では下記の内容を予定している。なお修士課程は博士課程と同時開講とし、基本技術と理論を習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種細胞培養（歯根膜・骨系細胞他） ② 動物実験（マウス、ラット、イヌ等）の各種技法 ③ in situ hybridization 法 ④ 免疫組織学 ⑤ コンフォーカル顕微鏡観察 ⑥ 各種矯正診断資料採得 ⑦ セファロ分析実習 ⑧ 顎運動の3次元測定と解析 ⑨ 医療統計解析入門 ⑩ 医療統計解析応用 		
テキスト・教材・参考書等	セミナーでは適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	受講者は受講計画に関して予め責任者の山本と相談のこと。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔障害科学	授業担当者 (責任者に○)	○五十嵐 薫 他								
単位数	1										
開講 曜日・講時	後期 木曜日 4講時	場所	口腔障害科学分野研究室								
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯根膜、骨、軟骨、骨髄などに由来する細胞の各種培養法を中心に基本的な培養実験技術を習得する。</p> <p>【内容】</p> <table> <tr> <td>1. 歯根膜細胞の培養</td> <td>(担当：宮川 彩 他)</td> </tr> <tr> <td>2. 骨芽細胞の培養</td> <td>(担当：春山 直人 他)</td> </tr> <tr> <td>3. 軟骨細胞の培養</td> <td>(担当：春山 直人 他)</td> </tr> <tr> <td>4. その他の細胞の培養</td> <td>(担当：五十嵐 薫 他)</td> </tr> </table>			1. 歯根膜細胞の培養	(担当：宮川 彩 他)	2. 骨芽細胞の培養	(担当：春山 直人 他)	3. 軟骨細胞の培養	(担当：春山 直人 他)	4. その他の細胞の培養	(担当：五十嵐 薫 他)
1. 歯根膜細胞の培養	(担当：宮川 彩 他)										
2. 骨芽細胞の培養	(担当：春山 直人 他)										
3. 軟骨細胞の培養	(担当：春山 直人 他)										
4. その他の細胞の培養	(担当：五十嵐 薫 他)										
テキスト・教材・参考書等	硬組織研究ハンドブック (MDU 出版会)、バイオ実験イラストレイテッド 6 すくすく育て 細胞培養 (秀潤社)										
成績評価の方法	出席及びレポートによる。										
備考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。										

授業科目	研究技術トレーニング 国際歯科保健学	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 木曜日 4講時	場所	国際歯科保健学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 開発途上国における国際保健医療分野や地域での歯科保健分野における協力方法について、プロジェクト（仮想）を用いて実際に計画立案及びその評価を行い、基本的な方法について実体験する。</p> <p>【内容】 開発途上国での保健医療協力プロジェクトの計画立案方法について（担当：小坂） 開発途上国での保健医療協力プロジェクトの評価方法について（担当：小坂）</p>		
テキスト・教材・参考書等	PCM手法の理論と活用 国際開発高等教育機構 保健医療プログラムの経済的評価法 篠原出版		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所等は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔病理学	授業担当者 (責任者に○)	○熊本 裕行
単位数	1		
開講 曜日・講時	前期 金曜日 4 講時	場所	口腔病理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 形態学的検索法の基本である組織標本の作製を実習し、標本観察について学ぶ。</p> <p>【内容】 固定・包埋・薄切・染色など基本的な組織標本作製を実習し、顕微鏡観察を通してその意義について教授する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、討論などによる。		
備 考	開講時間・場所などは受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔診断学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野高嗣 阪本真弥 庄司憲明 飯久保正弘
単位数	1		
開講 曜日・講時	月曜日～金曜日 1, 2講時	場所	東北大学病院口腔診断科外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもとした口腔診断の進め方について臨床の場で体得する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エックス線 CT 画像検査の実際について体得する (画像診断学的知識が必要)。 ・口腔顔面痛に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・味覚障害に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・口腔乾燥症に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・口腔粘膜疾患に関する診断の実際について体得する (免疫学的知識が必要)。 		
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology (4 rd Edition) (当分野製作)		
成績評価の方法	出席、態度及びレポートによる。		
備 考	外来演習の際には清潔な白衣着用のこと。 開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 顎顔面外科学	授業担当者 (責任者に○)	○川村 仁
単位数	1		
開講 曜日・講時	金曜 4.5講時	場所	顎顔面外科学分野 教室、病棟、外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 計画立案した実験を実施するにあたっての技術について理解を深め習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔顎顔面臨床の統計学 2 口腔顎顔面領域の骨性治癒実験 3 口腔顎顔面組織延長実験 4 口腔顎顔面領域の組織再生実験 5 インプラント体と生体組織界面観察実験 6 口腔顎顔面領域の腫瘍制御実験 		
テキスト・教材・参考書等	適宜論文を提示する。		
成績評価の方法	出席態度&presentation と議論の質等を総合的に判定。		
備考	自ら種々の問題点を認識しその解決のための議論を深めることを期待する。講義時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔外科学	授業担当者 (責任者に○)	○森川 秀広
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 (日時未定) 金曜日 4 講時	場所	口腔外科学分野実験室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>[目的] 手術にて切除あるいは摘出した標本を、速やかに病理組織学的診断を行うことにより、適切な処置の方向性を決める。</p> <p>[内容] 凍結標本の作り方、切片の切り方、染色法等を学ぶ。</p>		
テキスト・教材・参考書等			
成績評価の方法	出席回数		
備 考	開講時間、授業内容は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 歯科口腔麻酔学	授業担当者 (責任者に○)	○正木 英二 城戸 幹太 水田健太郎
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 金曜日 4 講時	場所	臨床棟 4 階歯科麻酔疼痛管理課医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科麻酔科領域における研究の立案と実施方法を学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <p>麻酔科領域の基礎研究（5週）</p> <p>研究対象の選択 研究方法の選択と立案 研究の評価</p> <p>麻酔科領域の臨床研究（5週）</p> <p>研究対象の選択 研究方法の選択と立案 研究の評価</p> <p>医学統計の選択と実施法（3週）</p> <p>研究プレゼンテーションの方法（2週）</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 顎口腔形態創建学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野 泰之 秋田 博敏 中村 恵
単位数	1		
開講 曜日・講時	受講者と相談に上、決める。	場所	顎口腔形態創建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯と骨および関連する細胞組織学の研究に際して利用する研究技術について研修することを目的とする。</p> <p>【内容】 動物実験、in situ hybridization、免疫染色、等の実験技術の研修。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポート等による。		
備 考	実施日時の相談のため、受講者は笹野まで連絡してください。		

授業科目	研究技術トレーニング 顎口腔機能創建学	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 治 穴田 貴久
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の 上、決める。	場所	顎口腔機能創建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 硬組織再生で用いられる生体機能材料の設計方法、幹細胞の取り扱いおよび評価方法を、実験を通じて理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織再生工学の手法 2. ヒドロキシアパタイト (HA) およびリン酸オクタカルシウム (OCP) の操作方法 3. 吸収性高分子の操作方法 4. 無機物のX線回折およびFTIRによる結晶相の同定法 5. 幹細胞と生体機能材料の評価方法 6. 動物実験手法 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 口腔腫瘍病態学	授業担当者 (責任者に○)	○田村眞理 小林孝安
単位数	1		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の 上、決める。	場所	加齢研遺伝子情報研究分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 細胞培養の基礎技術を習得させることを目的とする。</p> <p>【内容】 細胞培養基礎技術トレーニングコース</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	研究技術トレーニング 生体再生歯工学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鎌倉 慎治
単位数	1		
開講 曜日・講時	後期 月曜3・4講時	場所	骨再生医工学研究室他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】</p> <p>ラット等実験動物の組織内に生体材料を埋入する手法を通して生体再生歯工学およびそれらに関連する領域の基本的な研究技術を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>実験動物を用いた生体材料の組織内埋入法、灌流固定法、硬組織標本作製法・染色法および形態組織計測法について基本的な実験技術を学ぶ。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	<p>開講時間・場所は受講者と相談のうえ変更する場合がある。</p> <p>受講希望者は予め医学系研究科附属動物実験施設による教育訓練を受講しておくこと。</p> <p>受講制限があるので受講者は予め責任者の鎌倉と相談のこと。</p>		

授業科目	研究技術トレーニングコース 難治疾患・口腔免疫学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小笠原 康悦 中山 勝文
単位数	1		
開講 曜日・講時	受講者と相談の上決定	場所	加齢医学研究所 他
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 免疫学、分子生物学実験を遂行する上で基本となる手法を実習を通して理解することを目的とする。</p> <p>【内容】 1. 細胞免疫学的手法 2. 分子生物・免疫学的手法</p> <p>本研究技術トレーニングでは、原則として本分野での研究従事を前提としていることに留意すること</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講日程、内容は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	修士論文特別研修 大学院研究基礎論	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 佐々木啓一 高橋 信博 鈴木 治 市川 博之 福本 敏 菅原 俊二 吉武 清實 安田 浩康
単位数	1年次必修とし、修士論文特別研修(7単位)に含む		
開講 曜日・講時	1年次前期 月曜日 3、4、5講時	場所	A3講義室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 大学院生として研究を行う上で知っておくべき基本的事項を学ぶ。</p> <p>【内容】 5月9日(月) はじめに：大学院研究基礎論のGIO・SBO(若森) 1. 研究の作法：研究とは(佐々木) 2. 大学院生の作法：大学院で学ぶということ(高橋) 3. 大学院から始まるキャリアパス(若森)</p> <p>5月16日(月) 4. 研究事始め： (1) 研究倫理(鈴木) (2) 試薬の管理、廃液の管理(市川) (3) 遺伝子組み換え実験及び動物実験(福本) (4) RI実験(菅原)</p> <p>5月23日(月) 5. ハラスメント(吉武) 6. 臨床研究倫理(安田)</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席・レポートによる。 但し、社会人大学院生はISTU受講を認める。		
備 考	講義の順番は変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 歯科生物学	授業担当者 (責任者に○)	○高橋 信博 林 治秀 笹野 泰之 市川 博之
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 3講時	場所	基礎研究棟1階セミナー室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯学の根底を成す生物学(生命科学)を通して顎顔面口腔をはじめとする人体のしくみを教授し、科学的考察力、論理力を身に付けさせる。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体を構成する核酸、タンパク質などの構造を分子レベルで学び、生命活動の根幹をなす代謝活動等を遺伝子レベル、分子レベルから教授する。また口腔全体を宿主(歯・粘膜・唾液等)とパラサイト(口腔内共生微生物叢)からなる一つの生態系として捉え、これらから口腔疾患、口腔関連疾患の発症機序を教授する。 (高橋教授) ・人体の正常な形態と構造について解説するとともに、歯をはじめとする顎顔面口腔領域の諸器官の肉眼的形態・構造について教授する。 ・人体の主要器官の機能、特に神経系について基礎と感覚機能、自律神経系を解説するとともに、咀嚼・口腔感覚をはじめとする顎顔面口腔の生理的機能について教授する。 (林教授) ・歯をはじめとする顎顔面口腔領域諸器官の組織構造ならびに発生について修得させる。さらに再生医学、創生医学の基本となる細胞分化、組織の再生に関する概要を教授する。 (笹野教授) ・人の正常な歯を含む頭頸部の構造について解説するとともに、それらの機能との関連についても教授する。 (市川教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 歯科病態学	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 高田 春比古 菅原 俊二 熊本 裕行 田村 眞理
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜日・3講時	場所	後日指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科領域におけるさまざまな疾患の病態を、薬理学的視点、微生物・免疫学的視点、形態学的視点およびシグナル伝達等分子生物学的視点から学び、予防・治療法の創生について考える。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先ず、細菌学の歴史を概観し、口腔細菌学の成立と発展について解説する。次いで、高田が専門とする自然免疫機構、即ち菌体成分をパターン認識して発動する生体防御系について紹介する。特に、口腔粘膜における自然免疫の動態と歯周病を始めとする口腔粘膜感染症の病態との関わりについて、最新の実験成績を混じえて講義したいと考えている。(高田教授) ・ 口腔粘膜の生体防御機構の特徴について学ぶ。次に、口腔粘膜疾患の病態発現における免疫学的特徴を理解する。さらに、予防・治療法の創出について討論する。(菅原教授) ・ 口腔内炎症やメカニカルストレスに応答する細胞内シグナル伝達の分子機構について講義する。(田村教授) ・ 顎口腔領域に生じる多彩な疾患の形態学的特徴について概説する。(熊本教授) ・ 口腔内環境を感知する分子機構について講義する。更に、病態生理学的、薬理学的視点からも講義する。(若森教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講日時は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 医歯用生体材料学	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 小松 正志 鈴木 治 後藤 孝 新家 光雄
単位数	2		
開講 曜日・講時	月 3講時 10～2月(15回)	場所	受講者と相談の上, 決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科治療で用いる生体材料を中心に、その基礎的性質ならびに具備すべき要件について物理学、化学、生物学との関連を考慮し理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔の形態と機能の回復、保全にとって必要な生体材料、歯科材料の材料学的、生物学的性質の基礎について理解する。さらにこれらの開発研究にとって必要とされる研究手法を修得する。 ・歯科生体材料の臨床応用に際して考慮すべき材料学的、生物学的性質について、顎口腔再建治療の観点において理解する。また臨床研究手法の基本を習得する。 (佐々木教授) ・歯科生体材料の臨床応用に際して考慮すべき材料学的、生物学的性質について、歯科保存修復治療の観点において理解する。また臨床研究手法の基本を習得する。 (小松教授) ・組織再生、再建に用いる生体材料に関する基本的性質について理解する。またその開発研究に必要な研究手法を習得する。 (鈴木教授) ・歯科生体材料・生体親和性材料としてのチタン・セラミックスの歯科的応用について理解する。 (後藤教授) ・歯科生体材料としてのチタンの歯科的応用について理解する。 (新家教授) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 医歯用機器論	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 小松 正志
単位数	2		
開講 曜日・講時	火 2講時 10～2月(15回)	場所	受講者と相談の上, 決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 医歯用機器が具備すべき要件を、工学、材料学との関連から理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔の形態と機能の回復・保全を図るうえで必要な各種の医歯用治療機器・器材が具備すべき諸性質について、工学的、材料学的、生体計測学的、人間工学的な見地から修得する。 ・顎口腔再建治療の観点から医歯用治療機器・器材に求められる要件を考察する。新技術導入、臨床応用に際して考慮すべき事項について習得する。 (佐々木教授) ・歯科保存修復治療の観点から医歯用治療機器・器材に求められる要件を考察する。新技術導入、臨床応用に際して考慮すべき事項について習得する。 (小松教授) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 食品科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小関 健由 佐々木 啓一 高橋 信博
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 木曜日 3講時	場所	開講時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 う蝕予防、歯周病予防などの口腔保健の観点、さらには口腔機能の育成・保全の観点から、食品の開発研究に必要な知識を習得する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品栄養学をヒト体内での物質代謝から生化学的に捉え、食品の具備すべき性状を学ぶ。また口腔内共生微生物叢（歯垢）内での糖を初めとする代謝メカニズムからう蝕誘発性と食品との関連を学び、う蝕誘発性の低い食品開発を考察する。 (4月 高橋教授) ・唾液を介した口腔内共生微生物叢（歯垢）と食品性状との関連を、分子生物学ならびにバイオメカニカルな視点から学ぶ。 (5月 小関教授) ・咀嚼・嚥下機能と食品性状との関連を学び、顎口腔機能に及ぼす食の影響を考慮する。 (6月 佐々木教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 国際歯科保健学	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健 小関 健由
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期金曜日 3 講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 国際的な視野から我が国を取り巻く歯科医療・歯科保健の状況について理解し、国際協力のあり方や、我が国における課題や先駆的な取り組みについて学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の保健医療に関わる課題とその課題への取り組みについて、基本的な海外協力の事例を通じて概略を理解する。(担当 小坂) ・歯科保健医療における我が国のとりくみや課題について諸外国との比較を通じて理解していく。(担当 小坂) ・世界の歯科保健における歯科疾患予防対策の特徴と問題点を理解する。(担当 小関) 		
テキスト・教材・参考書等	国際保健医療学 杏林書院 国際保健学講座 じほう出版 国際歯科保健医療学 医歯薬出版		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 社会歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由 小坂 健
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期月曜日 3講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科医療経済、歯科医療福祉、歯科医療政策などを学び、歯科医療・口腔保健の諸問題を理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療・歯科保健の実情から将来像を模索し、歯科医療情報の開示などの社会と歯科医療、歯科保健との適切な連携について学ぶ。 (4・5月 小関教授) ・我が国の社会保険制度、特に介護保険制度と歯科医療・歯科保健との関わりなどを中心に現状と今後のあり方について学ぶ。 (6・7月 小坂教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 総合歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○菊池 雅彦 下西 充 岩松 正明
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 水曜日 3講時	場所	総合歯科診療部医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 総合歯科診療の概要について理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合歯科診療室で実施されている臨床教育システムを理解する。 ・ 総合歯科診療室におけるチーム医療について理解する。 ・ 総合歯科診療部が行う歯科臨床について理解する。 		
テキスト・教材・参考書等	資料を配付する。		
成績評価の方法	レポート等による。		
備 考	開講時間・開講場所は別途通知する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 口腔育成学	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由 山本 照子 五十嵐 薫 福本 敏
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期火曜日 3講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 発育期の口腔疾患の病態、予防、治療について学び、健全な口腔の育成について、その重要性を理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な口腔を育成する上で必要な口腔衛生管理に関する基本的・臨床的事項を学ぶ。 (10月 小関教授) ・発育期の歯列・咬合の育成管理について学ぶ。 (11月 福本教授) ・歯列不正、顎顔面の発育障害の病態と予防、治療に関して学ぶ。 (12月 山本教授) ・口腔育成の概念と成長期における矯正歯科治療のパスウェイについて学ぶ。 (1月～2月 五十嵐教授) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 口腔修復・回復学	授業担当者 (責任者に○)	島内 英俊 ○佐々木啓一 小松 正志 川村 仁	菊池 雅彦 越後 成志
単位数	2			
開講 曜日・講時	水 3講時 10～2月(15回)	場所	受講者と相談の上、決定	
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 成人期以降の口腔疾患の病態、予防、治療、及び口腔形態・機能の修復、回復、そして健全な口腔の維持について理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周病の病態と発症機序ならびにその予防、治療方法について理解する。 (島内教授) ・ 口腔疾患を全身との関係から捉え、その予防、治療方針について理解する。 (菊池教授) ・ う蝕、外傷、歯周病に起因する歯牙欠損に伴う障害ならびにその治療について理解する。 (佐々木教授) ・ う蝕に起因する歯質の部分的欠損に伴う障害ならびにその予防、治療について理解する。 (小松教授) ・ 顎顔面領域の炎症、腫瘍の臨床病態と発症機序ならびにその治療について理解する。 (川村教授) ・ 口腔領域の外科的疾患の病態と発症機序ならびにその治療について理解する。 (越後教授) 			
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。			
成績評価の方法	出席及びレポートによる。			
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。			

授業科目	(選択科目) 顎口腔機能学	授業担当者 (責任者に○)	○ 服部 佳功 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	加齢歯科学分野研究室 1
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 消化器、呼吸器、感覚器が混在する顎口腔は、それぞれの系が営む多様な機能に関与する。本講では、これら顎口腔の多様な機能のあらまし、ならびにそれら機能を研究対象とする際に必要となる機能計測の技術、方法の概略を理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な顎口腔機能について ・顎口腔機能の計測について 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 障害者歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○猪狩 和子
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期(10~12月) 受講者と相談の上決定	場所	A1 セミナー室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 知的障害・身体障害などの障害のある人の歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、スペシャルニーズに対応した健康支援の方法を学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の種類と口腔の特徴および行動の特性： 精神遅滞・脳性麻痺・自閉性障害・てんかん他 ・スペシャルニーズのある人の歯科的環境における行動調整 ・発達期の摂食・嚥下障害とそのリハビリテーション 		
テキスト・教材・参考書等	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科(医歯薬出版)		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 高齢者歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 服部 佳功 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	加齢歯科学分野研究室 1
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科医療の著しい発達にもかかわらず、日本人の歯の寿命は個体の寿命に遠く及ばない。むろん歯の欠損をもたらす原因は齲蝕や歯周病などの歯科疾患であるが、それらが老年期に頻発する背景に、この期に特有な歯科口腔保健上のリスクがあることを見逃してはならない。本講は、老年期における歯科口腔保健上のリスクに対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本邦高齢者の歯科口腔保健の現況について ・老年期の歯科口腔保健上のリスクについて 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) 感染予防歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○島内 英俊 玉澤 佳紀 玉澤かほる
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者と相談の上決定	場所	開講場所については受講者と相談の上決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 院内感染を引き起す感染症ならびにその機序、院内感染予防対策に関する基本的知識、 歯科における感染予防対策の特異性について学習し、安全な歯科医療の提供に必要な知識 を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】 ① 感染予防歯科学セミナー 1) 感染症の基礎知識 2) 感染予防対策の基礎 3) 歯科における感染予防対策 ② クリーン歯科治療室見学実習 ③ 指定講義の受講 歯学研究科の教員による選択科目の授業で、指定する講義 ④ その他、指定するセミナー・講義・感染対策についてのFD等</p> <p>受講者は①②を必須とし、併せて③あるいは④から選択すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし（必要に応じて適宜配布）。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	受講制限があるので、受講者は予め責任者の島内と相談のこと。		

授業科目	(選択科目) 顎口腔再建学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野 泰之 佐々木 啓一 川村 仁 越後 成志 正木 英二 鈴木 治
単位数	2		
開講 曜日・講時	具体的な実施日時は受講者と相談の上、決める。	場所	基礎研究棟 1階セミナー室
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 顎口腔の再建に関して、生物学的、生体材料学のおよび臨床歯学的観点から多角的に学ぶことを目的とする。</p> <p>【内容】 顎口腔諸組織の発生と修復に関して、解剖・組織学的な観点から教授する。 (笹野教授) 顎口腔の再建治療に関して、臨床生理学のおよび補綴学的な観点から教授する。 (佐々木教授) 顎口腔の再建治療に関して、顎顔面外科学的な観点から教授する。 (川村教授) 顎口腔の再建治療に関して、口腔外科学的な観点から教授する。 (越後教授) 顎口腔の再建治療に関して、麻酔学的な観点から教授する。 (正木教授) 顎口腔の再生医療に関して、生体材料学のおよび組織工学的な観点から教授する。 (鈴木教授)</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポート等による。		
備考	実施日時の相談のため、受講者は笹野まで連絡してください。		

授業科目	(選択科目) 口腔健康科学特論	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	未定	場所	歯学研究科 A1 セミナー室、A1 講義室 および ISTU
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 ヒトのからだの入口であり精緻な形態と精密な機能を持つ口腔には、膨大な数の微生物が生息し、また、歯科医療に伴い種々のバイオマテリアルが使用される。このような環境を持つ口腔は、ヒトと微生物とバイオマテリアルの調和的共存、すなわち健康の維持を考える良いモデルである。本特論では、歯学、工学、材料学などを融合した口腔健康化学を学び、その独自性と普遍性を理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯学概論 (ISTU) (担当: 佐々木 啓一、小関 健由、島内 英俊) 2. インターフェイス口腔健康科学概論 (担当: 高橋 信博、菅原 俊二、鈴木 治) 3. 生体材料学概論 (担当: 三浦 英生、千葉 晶彦) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	(選択科目) がん口腔ケア特別研修	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由 笹野 高嗣 越後 成志 川村 仁
単位数	1		
開講 曜日・講時	指定する6ヵ月間	場所	後日連絡
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔は、食べる・呼吸するといった生命に必須の機能を持つと共に、他の人とコミュニケーションをとり、自分を表現する大変重要な役割を担う。この口腔機能を出来るだけ高く維持することは、入院加療中や緩和ケア時の生活の質の向上に直結する。さらに、頭頸部領域のがん処置時に口腔ケアを実施すると、入院時間の短縮や術後の発熱等の合併症が少ないことが報告され、放射線治療時や薬物療法を実施した際の口腔乾燥症への対応も、闘病生活を支える上でも極めて重要である。これらは、一般的には口腔ケアと総称されているが、がん治療中に実施する病院口腔ケアは、極めて専門的な知識と技能が要求される。東北大学歯学研究科では、口腔の構造と機能、がんによる口腔の変化とその対応の実際について、専門的な系統的講義と大学病院における実習を本コースにて提供し、各病院施設等のがん患者の口腔ケアを実践し、病院口腔ケアの指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。</p> <p>【内容】 (1) がんの生物学的特性と臨床腫瘍学特論 (2) がん患者の口腔内の特殊性と合併症 (3) 口腔支援手法特論 (4) 口腔ケア手法実習 (5) 大学病院がん患者口腔ケア実習 (6) がん患者症例カンファレンス (7) がん患者口腔支援総合討論</p>		
テキスト・教材・参考書等	開講時に指示する。		
成績評価の方法	テスト及びレポートによる。		
備 考	本コースは、南東北がんプロフェッショナル養成プランに基づくインテンシブ・コースとして定員を6名とし、病院等勤務の口腔ケアに関わる歯科衛生士、及び、看護師に対して公開講義とする。 開講時間は受講者と相談の上、決定する。		

9. 科目別教育目標及び授業計画 [歯学履修課程 (博士課程)]

授業科目	歯学特論 口腔生化学	授業担当者 (責任者に○)	○高橋 信博 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	4月～12月 水曜日 1・2講時	場所	大学院農学研究科大講義室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 東北大学に所属する生化学研究者が現在行っている最先端の研究に触れることで、生化学・分子生物学研究の現状を知り、大学院生自身の研究の奥行きを広げることができることを目的とする。さらに自身の研究が他の学問領域・研究領域とどのような関連性を持つかについて理解できることを目的とする。</p>		
	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NOの生体内での働きとその機構 (清水 透: 生命科学研究所) ・ 酸素適応とヘム代謝: 揺りかごから墓場まで (柴原茂樹: 医学系研究科) ・ 免疫系受容体のタンパク質工学と利用 (熊谷 泉: 工学研究科) ・ 生体分子の電極反応とその応用 (末永智一: 環境科学研究科) ・ 新しいタイプの金属タンパク (斎藤正男: 生命科学研究所) ・ 突然変異生成の分子機構 (山本和生: 生命科学研究所) ・ ストレス応答の分子機構 (十川和博: 生命科学研究所) ・ 細胞内シグナル伝達の正と負の制御機構 (田村真理: 加齢医学研究所) ・ アミラーゼの生化学と分子生物学 (中島 佑: 農学研究科) ・ 環境汚染物質に対する生体防御機構 (永沼 章: 薬学研究科) ・ 血管新生の分子制御 (佐藤靖史: 加齢医学研究所) ・ 神経発生の分子機構 (大隅典子: 医学系研究科) ・ サイトカインシグナル伝達 (菅村和夫: 医学系研究科) ・ 筋収縮の情報伝達 (竹島 浩: 医学系研究科) ・ 細胞運動、細胞骨格を制御するシグナル伝達 (水野健作: 生命科学研究所) ・ 脳高次機能、記憶の分子基盤 (福永浩司: 薬学研究科) ・ 膜受容体のバイオサイエンス (西森克彦: 農学研究科) ・ イソプレノイドの生化学 (古山種俊: 生命科学研究所) ・ 口腔生態系の生化学-齲蝕と歯周病- (高橋信博: 歯学研究科) ・ NAD 代謝産物による細胞機能調節 (高沢 伸: 医学系研究科) ・ 麹菌のゲノムサイエンス (五味勝也: 農学研究科) ・ 血液凝固と生体防御 (高木 尚: 生命科学研究所) ・ 糖鎖認識結合タンパク質の構造と機能 (村本光二: 生命科学研究所) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	講義に出席し、その中の2回の講義についてレポートを提出する。		
備考	講義日程については、別紙「大学院生化学合同講義日程表」を参照すること。		

授業科目	歯学特論 歯科薬理学	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 吉田 卓史 窪田 寿彦
単位数	3		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の 上決定	場所	基礎研究棟5階 歯科薬理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 Membrane physiology を理解することを目的とする。</p> <p>【内容】 生体内で速く情報を伝えるために電気が使われているが、その電気はイオンの流れに他ならない。このイオンを流すタンパク質がチャンネルやトランスポーターである。以下の項目に関して講義するが、特に項目④に関して重点的に講義する。</p> <p>① チャンネルやトランスポーター基礎 Hodgkin-Huxley model を含む、熱力学的理解と分子生物学的機能解析</p> <p>② チャンネルやトランスポーターの機能破綻と疾患について チャンネルやトランスポーターの病態生理とのかかわりについて</p> <p>③ 薬物ターゲットとしてのチャンネルやトランスポーター</p> <p>④ 口腔感覚の受容体、増幅器としての新規チャンネルの最新情報</p> <p>A. カプサイシン受容体 (TRPV1) と痛覚</p> <p>B. メカノセンサーとしての TRP チャンネル</p> <p>C. 味覚の増幅器としての TRP チャンネル</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席と特論への取組で評価する。		
備 考			

授業科目	歯学特論 口腔微生物学	授業担当者 (責任者に○)	○高田春比古 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者に適宜連絡	場所	受講者に適宜連絡
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔の感染症、特に細菌感染症とそれに対する宿主応答に関する最先端の研究に関して、さらにこれらに密接に関連する領域の研究に関して、第一線の研究者によるセミナーを受講して、自らの研究に資する情報を得る。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯学研究科の教員による歯学特論の授業で、指定する講義（高田春比古が担当する講義の他、松下健二教授等担当の講義） 2時間 x 10回以上 2. 医学系研究科で開講される「免疫科学セミナー」 9月～2月 木曜日 17:00～19:00 20回以上 3. 歯学部開講の「感染と免疫」中の特別講義で「微生物学・免疫学特論」に指定する講義 12月、1月 月曜日 9:00～12:00 又は 金曜日 13:00～16:10 3回以上 4. その他、指定するセミナー・講義等 <p>受講者は以上のセミナーから選択受講すること。但し、担当責任者の高田春比古の授業を必ず4時間以上受講すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	セミナーでは適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	受講者は受講計画に関して予め責任者の高田と相談のこと		

授業科目	歯学特論 歯内歯周治療学	授業担当者 (責任者に○)	○島内 英俊 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者に適宜連絡	場所	受講者に適宜連絡
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯内疾患及び歯周疾患の病態ならびにその病態形成あるいは口腔と全身の関係の基盤となっている host-parasite interaction について理解を深めることを目的とする。また生体応答を応用した治療法の開発の可能性あるいはその理論について理解し、新たな研究の展開方法について情報を得ることを併せて狙っている。</p> <p>【内容】</p> <p>① 歯内歯周治療学セミナーシリーズ（8時間）</p> <p>1) 歯周病と免疫応答（2時間）</p> <p>2) 歯内疾患と免疫応答（2時間）</p> <p>3) 細胞生物学的にみた歯周組織再生（2時間）</p> <p>4) 歯周病と全身の関係（2時間）</p> <p>② 指定講義の受講（2時間×6以上） 歯学研究科の教員による歯学特論の授業で、指定する講義（口腔生物学講座ならびに他大講座で開講されるもの）</p> <p>③ その他、指定するセミナー・講義等（2時間×6以上）</p> <p>受講者は①を必須とし、併せて②あるいは③の中から選択すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔分子制御学	授業担当者 (責任者に○)	○菅原 俊二 黒石 智誠
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 1・2講時	場所	基礎研究棟8階ゼミ室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔の生体防御と免疫・炎症反応についてのメカニズムを理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔の生体防御機構と口腔疾患の病態発現について学ぶ（担当：菅原） ・口腔粘膜の免疫誘導と免疫寛容誘導の機構について学ぶ（担当：黒石） 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考			

授業科目	歯学特論 総合診療学	授業担当者 (責任者に○)	○菊池 雅彦 下西 充 岩松 正明
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期 月曜日 1・2講時	場所	総合歯科診療部医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 全人的歯科医療を理解する一助として口腔と全身の健康との関わりについて理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔衛生とQOL 2. 摂食機能と栄養 3. 咀嚼と身体機能 4. 咀嚼と精神機能 5. 口腔衛生と全身疾患 		
テキスト・教材・参考書等	資料を配付する。		
成績評価の方法	レポート等による。		
備考	開講時間・開講場所は別途通知する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔器官構造学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鈴木 敏彦 狩野 充浩
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	受講者と相談の上決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 解剖学的視点からみた再生医療に関する先端的研究を紹介しながら概要を理解し、研究立案に生かすことを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭蓋の形態変化に関わる各種機能的因子について 2. 再生医療における機能的環境の重要性について 3. 機能性材料の再生医療への応用について 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔生理学	授業担当者 (責任者に○)	○林 治秀
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 1・2講時	場所	未定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 基礎医学の根底を成す形態と機能の中、特に機能について学ぶ。中でも最近歯学にとっても重要さを増している神経生理学をとりあげ、基礎神経生理学、感覚生理学、運動生理学の概要を学ぶことを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 神経生理学の概要について－1－ (担当：林) (2) 神経生理学の概要について－2－ (担当：戸田孝史)</p> <p>(3) 体性感覚 (以下担当：林) (4) 口腔感覚 (5) 痛みと鎮痛－1－ (6) 痛みと鎮痛－2－</p> <p>(7) 運動生理学 (以下担当：戸田孝史) (8) 咀嚼運動－1－ (9) 咀嚼運動－2－ (10) 歯根膜感覚－1－ (11) 歯根膜感覚－2－</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔システム補綴学	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 小川 徹
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 1・2講時	場所	口腔システム補綴学分野研究室(医局)
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 補綴歯科学の発展を図るうえで必要となる基礎研究、臨床研究、先端研究の概要ならびにその在り方を理解し、研究立案に活用できる。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補綴歯科学の現状と課題 (担当：佐々木啓一) 2. 材料—生体インターフェースの制御 (担当：佐々木啓一) 3. 力学—生体インターフェースの制御 (担当：佐々木啓一) 4. 咀嚼・嚥下機能との関連 (担当：佐々木啓一) 5. 補綴歯科臨床におけるエビデンス (担当：小川 徹) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 加齢歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 服部 佳功 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 1・2講時	場所	加齢歯科学分野研究室 1
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科医療の著しい発達にもかかわらず、日本人の歯の寿命は個体の寿命に遠く及ばない。むろん歯の欠損をもたらす原因は齲蝕や歯周病などの歯科疾患であるが、それらが老年期に頻発する背景に、この期に特有な歯科口腔保健上のリスクがあることを見逃してはならない。本講では、老年期における歯科口腔保健上のリスクのありさまを概説し、それへの対応を中核とした高齢者歯科医療のあり方を考察する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本邦高齢者の歯科口腔保健の現況について ・高齢者の歯科口腔保健上のリスクについて ・高齢者歯科医療のあり方について 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 歯科生体材料学	授業担当者 (責任者に○)	○高田 雄京 菊地 聖史 高橋 正敏
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 水曜日 1・2講時	場所	基礎研究棟5階 歯科生体材料学分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 最先端の歯科用金属材料の基礎知識を理解し、その応用力を身につけることで歯科生体材料に関する研究能力を高めることを目的とする。</p> <p>【内容】 チタンおよびチタン合金について 生体用チタンおよびチタン合金 チタン合金の生体親和性 チタン合金の耐食性 チタン合金の歯科鑄造 チタン合金の CAD/CAM CAD/CAM 用チタン合金の開発 磁性の歯科応用 歯科用磁性アタッチメント 磁性合金の耐食性と骨親和性</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	開講時間は受講者と相談の上変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 歯科保存学	授業担当者 (責任者に○)	○小松正志 小林洋子
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 水曜日 1、2 講時	場所	歯科保存学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 適切なコンポジットレジン修復、歯根修復を行うためにコンポジットレジンの歯質接着性・接合性とその長期臨床成績及び歯根修復における歯根膜再生について理解する。</p> <p>【内容】 コンポジットレジンの歯質接着性・接合性とその長期臨床成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンポジットレジンのエナメル質、象牙質に対する歯質接着性および評価法について学ぶ。 ・ SEM 観察による歯質接合性評価を学ぶ。 ・ 各種コンポジットレジン修復の長期臨床成績を学び、臨床応用に際して材料選択の基準とする。 <p>歯根修復における歯根膜再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯根修復の現状を把握する。 ・ ティッシュエンジニアリングの基礎を学ぶ。 ・ 歯根修復へのティッシュエンジニアリングの応用と、歯根膜再生の意義について理解する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席（レポート）		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 咬合機能再建学	授業担当者 (責任者に○)	○ 依田正信 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 1, 2 講時	場所	咬合機能再建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>目的 クラウン・ブリッジ系診療に関係する下記項目に関する基礎知識を習得し、研究能力向上を期待する。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種審美歯科材料の物性 2. 各種審美歯科材料と歯科用合金の接合 3. CAD/CAM を応用したクラウン・ブリッジ 4. クラウン・ブリッジの構造と力学 5. クラウン・ブリッジの臨床シミュレーション 6. 疫学調査のための統計 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席とレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 予防歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期木曜日 1、2 講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 国民の健康な生活を確保するために、公衆衛生の向上及び増進を計る予防歯科学の、歯科医療及び保健指導について学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における歯科保健活動の実例を示して、実施の際の問題点や効果的な運用法を理解する。(10～12月) ・ 高齢者の口腔内の疾病予防法を例にとり、口腔内環境と疾病の予防について理解する。(1月) ・ 服薬と歯科疾患予防について、口腔に起こる変化をもとに疾病の発症のメカニズムについて理解する。(2月) 		
テキスト・教材・参考書 等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 小児発達歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○福本 敏 他
単位数	3		
開講 曜日・講義	前期(6月) 後期(10月) 木曜日 1・2講時	場所	未定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 小児歯科に特徴的な疾患の特徴を理解するとともに、その原因究明のための手法および治療法の開発について、最新の研究成果について触れるとともに、歯の再生療法について理解を深めることを目的とする。</p> <p>【内容】 前期(6月) 小児の歯科治療に際して考慮すべき成長発育について 小児の顎顔面に発症する遺伝性系統疾患の概要について</p> <p>後期(10月) 歯の再生研究の概要について</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 顎口腔矯正学	授業担当者 (責任者に○)	○山本照子 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者に適宜連絡	場所	受講者に適宜連絡
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】</p> <p>不正咬合の診断と治療に関する最先端の情報に触れることにより、歯科矯正臨床の現状と研究動向について理解を深める。矯正装置が与える顎への影響や、歯の移動のメカニズムについては骨代謝に関する新知見が次々と発表されており、これに基づいた知識を深める。</p> <p>【内容】</p> <p>① セミナーシリーズ（8時間）</p> <p>1) 歯の移動の生体反応・メカニズム（2時間）</p> <p>2) 矯正診断とセファロ分析（2時間）</p> <p>3) 矯正歯科における顎口腔機能分析（2時間）</p> <p>4) 先天異常の歯科矯正治療（2時間）</p> <p>② 指定講義の受講（2時間×6以上）</p> <p>歯学研究科の教員による歯学特論の授業で、指定する講義（口腔保健発育学講座ならびに他大講座で開講されるもの）</p> <p>③ その他、指定するセミナー・講義等（2時間×6以上）</p> <p>受講者は①を必須とし、併せて②あるいは③の中から選択すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	セミナーでは適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	受講者は受講計画に関して予め責任者の山本と相談のこと。		

授業科目	歯学特論 口腔障害科学	授業担当者 (責任者に○)	○五十嵐 薫 他
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期 火曜日 1・2講時	場所	口腔障害科学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔障害科学分野および学内外の研究者の最新の研究成果に触れ、自らの研究に役立つ情報を得る。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外力に対する歯周組織の反応 (担当：五十嵐 薫 他) 2. 生物リズムと歯科矯正治療 (担当：五十嵐 薫) 3. その他、指定する講義、セミナー等 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 国際歯科保健学	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 木曜日 1・2講時	場所	国際歯科保健学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 国際保健協力の必要性とその方法について理解すること、さらに我が国の歯科医療・歯科保健の状況について国際的な観点から理解を深めることを目的とする。</p> <p>【内容】 国際保健医療協力の必要性について (担当：小坂) 国際保健医療協力における我が国の役割について (担当：小坂) 国際保健医療協力における歯科保健の役割について (担当：小坂) 国際的な観点からみた我が国の社会保障制度について (担当：小坂)</p>		
テキスト・教材・参考書等	Paul F. Basch “Textbook of International Health 2 nd ed.” Oxford Univ. press		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔病理学	授業担当者 (責任者に○)	○熊本 裕行
単位数	3		
開講 曜日・講時	前期 金曜日 1・2講時	場所	口腔病理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 近年増加傾向にあり歯科医師の役割としての重要性が問われる口腔癌 および 歯科口腔領域に特異的で多彩な形態を示す歯原性腫瘍について、総合的な授業を行う。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔癌：前癌病変、疫学、病因論、形態、診断、治療法など。 2. 歯原性腫瘍：歯の発生、分類、形態、診断、分子メカニズムなど。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、討論などによる。		
備 考	開講時間・場所などは受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔診断学	授業担当者 (責任者に○) ○笹野高嗣 阪本真弥 庄司憲明 飯久保正弘	
単位数	3		
開講 曜日・講時	金曜日 3, 4 講時	場所	口腔診断学分野研究室
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 疾患を診断するための科学的根拠に基づいた知識および論理的な思考力を習得する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔疾患を診断するための画像診断学について教授する（講義）。 ・顎口腔疾患を診断するための血清診断学について教授する（講義）。 ・顎口腔疾患を診断するための臨床診断学について教授する（講義）。 		
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology (4 rd Edition) (当分野製作)		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 顎顔面外科学	授業担当者 (責任者に○)	○川村 仁
単位数	3		
開講 曜日・講時	金曜 1. 2 講時	場所	顎顔面外科学分野 教室、病棟、外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 全人的健康のための口腔顎顔面の健康について理解し、そのための口腔顎顔面外科学の役割について考察することを目的とする。</p> <p>【内容】 現在行われている口腔顎顔面外科治療の概要について (担当：川村 仁) 口腔顎顔面顎の変形と奇形 (担当：川村 仁&後藤 哲&長坂 浩) 口腔顎顔面顎の炎症と外傷 (担当：川村 仁&森 士朗&栗原 淳) 口腔顎顔面顎の嚢胞・腫瘍 (担当：川村 仁&佐藤 実&宮下 仁) 口腔顎顔面顎における補綴前外科&矯正前外科 (担当：川村 仁&栗原 淳) 顎関節疾患と外科治療 (担当：川村 仁&佐藤修一)</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔外科学	授業担当者 (責任者に○)	○越後 成志 君塚 哲 森川 秀広 橋元 亘 松井 桂子
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期(日時未定) 金曜日 1・2講時	場所	予定：口腔外科学分野医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>[目的]</p> <p>口腔外科領域の多様な疾患のなかで、特論では骨組織の移植と骨再生に関する研究、および腫瘍に関する研究について理解することを目的とする。</p> <p>[内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口唇裂口蓋裂の先天的骨欠損 2. デンタルインプラントにおける骨の重要性 3. 骨移植と骨代用剤 4. 口腔癌の診断 5. 口腔癌の治療 6. 口腔癌の免疫療法 		
テキスト・教材・参考書等	適宜指定する		
成績評価の方法	出席回数、レポート		
備 考	開講時間・場所は変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 歯科口腔麻酔学	授業担当者 (責任者に○)	○正木 英二 城戸 幹太 水田健太郎
単位数	3		
開講 曜日・講時	後期 金曜日 1・2講時	場所	臨床棟 4階歯科麻酔疼痛管理課医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科麻酔学の基礎と臨床に対する理解を深め研究へ反映させることを目的とする。</p> <p>【内容】 歯科麻酔学総論 全身管理の基本 局所麻酔法の理論と実際 精神鎮静法の理論と実際 全身麻酔法の理論と実際 全身疾患と麻酔管理の問題点 口腔顔面痛の診断と治療 歯科治療偶発症への対応 心肺蘇生法の理論と実際 (各1週)</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 顎口腔形態創建学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野 泰之
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者に通知する。	場所	基礎研究棟 1階セミナー室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯と骨および関連する組織の発生と修復に関して、最新の文献的な学術情報を紹介し、さらに講義担当者等の研究を紹介することで、当該研究分野に対する関心を惹起することを目的とする。</p> <p>【内容】 (1) 硬組織の発生と修復の概要について (担当：笹野) (2) 「細胞生物学合同講義」の受講</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポート等による。		
備 考	実施日時の相談のため、受講者は笹野まで連絡してください。		

授業科目	歯学特論 顎口腔機能創建学	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 治 穴田 貴久
単位数	3		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める。	場所	顎口腔機能創建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 硬組織再生で用いられるリン酸オクタカルシウム (OCP) 等の生体機能材料とその生体反応、生体融合性、また幹細胞について理解することを目的とする。また再生・創建医歯学の研究方法を理解する。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織再生工学の手法について 2. 生体機能材料の種類、構成、機能、設計方法について 3. 幹細胞、生体組織との界面、生体適合性について 4. 生体機能材料と徐放について 5. 基質タンパク質の自己組織化と生体機能材料について 6. 硬組織形成の石灰化メカニズムについて 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。ISTU (インターネットスクール) を使って行う場合がある。		

授業科目	歯学特論 口腔腫瘍病態学	授業担当者 (責任者に○)	○田村眞理 小林孝安
単位数	3		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める。	場所	加齢研遺伝子情報研究分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔内炎症やメカニカルストレスに応答する細胞内シグナル伝達の仕組みを理解させることを目的とする。</p> <p>【内容】 ストレス応答シグナル伝達の分子機構についての講義</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 生体再生歯工学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鎌倉 慎治
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者に適宜連絡	場所	医学部5号館201号室他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 現在歯科・口腔外科領域の治療に用いられている様々な生体材料とそれらの生体との関わりについて学ぶとともに、最新の歯科領域における再生医学とそれに関わる新素材について解説する。</p> <p>【内容】 骨再生材料等について</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席及び試験による。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

授業科目	歯学特論 難治疾患・口腔免疫学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小笠原 康悦 中山 勝文
単位数	3		
開講 曜日・講時	受講者と相談の上決定	場所	加齢医学研究所 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 難治疾患・口腔免疫学にかかわる最先端の研究内容を理解し、自身の研究能力を高めることを目的とする。</p> <p>【内容】 1. 指定するセミナーへの参加、討論 (指定するセミナーは事前に受講者に連絡する。)</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講日程、場所、内容は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	口腔健康科学特論 (国際高等研究教育院 指定授業科目)	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	未定	場所	歯学研究科 A1 セミナー室、A1 講義室 および ISTU
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 ヒトのからだの入口であり精緻な形態と精密な機能を持つ口腔には、膨大な数の微生物が生息し、また、歯科医療に伴い種々のバイオマテリアルが使用される。このような環境を持つ口腔は、ヒトと微生物とバイオマテリアルの調和的共存、すなわち健康の維持を考える良いモデルである。本特論では、歯学、工学、材料学などを融合した口腔健康科学を学び、その独自性と普遍性を理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯学概論 (ISTU) (担当: 佐々木 啓一、小関 健由、島内 英俊) 2. インターフェイス口腔健康科学概論 (担当: 高橋 信博、菅原 俊二、鈴木 治) 3. 生体材料学概論 (担当: 三浦 英生、千葉 晶彦) 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔生化学	授業担当者 (責任者に○)	高橋 信博 ○佐藤 拓一 中條 和子 鷲尾 純平
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 5講時	場所	基礎研究棟8階 口腔生化学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 主に口腔生化学分野で研究に従事する大学院生を対象に、口腔生化学に関する最新の研究内容（特に口腔生態系、口腔バイオフィルムおよび齲蝕・歯内疾患・歯周病・口臭症等の代表的口腔疾患に関する研究）に関する演習を行うことで、最新の研究内容に触れ、さらに当分野で現在進行している研究プロジェクトに携わる（応分の研究を担当する）ことで、大学院生自身の研究を Encourage することを目的とする。</p> <p>【内容】 毎週月曜に、通年で開催されている当分野の教室セミナーに年 15 回以上出席し、教職員による討論に参加する。さらに、自分自身の研究進捗状況 (Progress Report) について、発表報告（ビジュアルエイドを用いたプレゼンテーション）する。なお、発表報告は 2 回以上とする。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 歯科薬理学	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 吉田 卓史 窪田 寿彦
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 3講時	場所	基礎研究棟5階 歯科薬理学教室
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 生体内の情報伝達、伝導、細胞内シグナルトランスダクションに関する英語論文を読み、自分の研究に関する最新の情報を得る手法を身につけるとともに、PowerPoint を用いた発表や討論の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【内容】 薬理学、生理学、分子生物学領域に関する抄読会である。研究内容に近い論文を紹介すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	発表と演習への取組みで評価する		
備考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習（Ⅰ～Ⅲ） 口腔微生物学	授業担当者 （責任者に○）	○ 高田春比古 力石秀実 他
単位数	各2		
開講 曜日・講時	毎週木曜日 16:00～18:00	場所	第3セミナー室（A棟8F）
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 微生物学・免疫学並びに関連する領域の最新の英語論文を読みこなし、判り易く説明するとの作業を通して、論文から自らの研究に資する情報を得る素養を身に付けるとともに、研究内容を説明して討論する能力、さらに自らの研究に資する論文を検索する能力を身に付ける。</p> <p>【内容】 微生物学・免疫学並びに関連する領域の抄読会である。受講者は最新かつレベルの高い英語論文を年間2編以上担当して参加者に紹介する。また、他の参加者が担当する際には、積極的に討論に加わって、研究者としての能力を高める。 受講者は原則として、1年目はⅠ、2年目はⅡ、3年目はⅢを受講することができる。3年間受講すれば、上記の能力は確実に身につく。</p>		
テキスト・教材・参考書等	毎回担当者が資料を作成・配布する。		
成績評価の方法	担当時の発表内容、並びに出席率		
備考	受講希望者は予め責任者の高田と相談のこと		

授業科目	歯学演習 歯内歯周治療学	授業担当者 (責任者に○)	○島内 英俊 根本 英二 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	前・後期 毎週木曜日 16:00~17:00	場所	医局 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯内治療学、歯周治療学における基礎研究及びそれらに関連する領域（主に細菌学、免疫学、再生医学）の最新の英語論文を読みこなし、判り易く説明するとの作業を通して、論文から自らの研究に資する情報を得る素養を身に付けるとともに、研究内容を説明して討論する能力、さらに自らの研究に資する論文を検索する能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>【内容】 本抄読会は大学院生及びポスドクを対象として開催するもので、それぞれの参加者の研究のバックグラウンドあるいは実験法に関する論文を抄読し、ディスカッションを行う。受講者はこれに参加することにより、英語論文を読解しさらにその内容をまとめるという力を身につけることができる。また最新の情報を常にアップデートし、さらに討論に積極的に参加することにより、研究者としての能力を高めることが期待される。 受講者は、前・後期を通じて30時間以上参加することを必須とする。</p>		
テキスト・教材・参考書等	毎回担当者が資料を作成、配布する。		
成績評価の方法	担当時の発表内容及び出席により評価する。		
備 考	受講希望者は予め責任者の島内と相談のこと		

授業科目	歯学演習 口腔分子制御学	授業担当者 (責任者に○)	○菅原 俊二
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 3講時	場所	基礎研究棟8階ゼミ室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 抗原抗体反応の基礎を習熟し、研究に応用できる能力を養う。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗原抗体反応の基本原理を習熟する。 ・抗原抗体反応の研究への応用法を理解する。 ・具体的ケース(課題)をいくつか取り上げて実験計画を立案(シュミレーション)し、討論する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者との相談の上、変更することがある。		

授業科目	歯学演習 総合診療学	授業担当者 (責任者に○)		○菊池 雅彦 下西 充 岩松 正明
単位数	2			
開講 曜日・講時	後期 月曜日 3講時	場所	総合歯科診療部医局	
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 総合歯科診療・プライマリケアの教育方法および役割について理解することを目的とする。</p> <p>【内容】 総合歯科診療室で実施されている卒前・卒後臨床教育システムの概要ならびに総合歯科診療部で行っている総合歯科診療について習得する。</p>			
テキスト・教材・参考書等	資料を配付する。			
成績評価の方法	レポート等による。			
備 考	開講時間・開講場所は別途通知する場合がある。			

授業科目	歯学演習 口腔器官構造学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鈴木 敏彦 狩野 充浩
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	受講者と相談の上決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 頭頸部の加齢的变化（顎骨の形態変化、口腔機能、嚥下機能の加齢変化など）に関する最新の知見を紹介する英語論文を抄読し理解を深めながら、抄読論文における課題を解明するための方法について検討する。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭頸部の加齢的变化に関する英文抄読 2. 抄読内容の発表 3. 論文の課題に関する検討および討論 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔生理学	授業担当者 (責任者に○)	○林 治秀
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 3講時	場所	未定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 最近歯学にとっても重要性を増している神経生理学をとりあげ、体性感覚、咀嚼運動を中心とした神経生理学を学ぶ。また最近の研究の動勢を知ることが目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 体性感覚－1－ (以下担当：林)</p> <p>(2) 体性感覚－2－</p> <p>(3) 口腔感覚－1－</p> <p>(4) 口腔感覚－2－</p> <p>(5) 味覚－1－</p> <p>(6) 味覚－2－</p> <p>(7) 痛みと鎮痛－1－</p> <p>(8) 痛みと鎮痛－2－</p> <p>(9) 運動生理学－1－ (以下担当：戸田孝史)</p> <p>(10) 運動生理学－2－</p> <p>(11) 咀嚼運動－1－</p> <p>(12) 咀嚼運動－2－</p> <p>(13) 歯根膜感覚－1－</p> <p>(14) 歯根膜感覚－2－</p> <p>(15) 歯根膜感覚－3－</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔システム補綴学	授業担当者 (責任者に○)	○佐々木 啓一 小川 徹 埴 総司
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜 3 講時	場所	口腔システム補綴学分野研究室 (医局)
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 補綴歯科学に関わる研究を遂行するうえで必要となる研究方法、実験手法について演習を通して理解し、研究に活用できる。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補綴歯科学における生体力学的研究 (担当：佐々木啓一) <ol style="list-style-type: none"> ① 顎骨・顎関節・歯列における力学 ② 補綴装置と生体力学 ③ 生体内計測 ④ 有限要素モデルによる解析 2. 補綴歯科学におけるバイオマテリアル—生体反応 (担当：佐々木啓一) <ol style="list-style-type: none"> ① バイオマテリアルによる生体反応制御 —自己組織化能・生体応答制御能・力学的適応能 ② バイオマテリアルの表面改質 ③ 新バイオマテリアルの開発 3. 咀嚼・嚥下の機能的研究 (担当：埴 総司) 4. プロスペクティブ・クリニカル・スタディ (担当：小川 徹) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 加齢歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 大井 孝 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	疫学調査の時期などを考慮し、受講者と相談の上決定	場所	加齢歯科学分野研究室1 他
授業の目的及び内容	<p>【目的】 加齢歯科学の研究には、実験科学的手法のほかに、臨床疫学的な手法の応用が重要である。本演習は、当分野が岩手県の旧大迫町（現花巻市）で実施している疫学研究への参加を通じて、疫学研究の考え方や方法を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当分野の疫学研究の成果などに基づいて、歯科口腔保健上の諸因子と全身の健康の関連を理解する ・旧大迫町における歯科検診事業に参加して、疫学研究の実情を理解する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 歯科生体材料学	授業担当者 (責任者に○)	○高田 雄京 菊地 聖史 高橋 正敏
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期(5~9月)中または 後期(10月~2月)中の3日	場所	基礎研究棟5階 歯科生体材料学分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 生体材料の研究に必要な走査型電子顕微鏡による観察方法および電子線マイクロアナライザーによる元素分析の基礎を習得する。</p> <p>【内容】 走査型電子顕微鏡の原理 試料作製 観察方法</p> <p>電子線マイクロアナライザーの原理 試料の作製 元素分析方法 定性分析 定量分析</p>		
テキスト・教材・参考書等	教員が準備する		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	実験技術トレーニングコースと共に受講すること。 開講日は受講者と相談の上決める。開講日には終日出席が可能なこと。		

授業科目	歯学演習 歯科保存学	授業担当者 (責任者に○)	○佐藤秀樹 小松正志
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 3講時	場所	歯科保存学分野4研
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 チタン、ポーセレン修復を行うために生体親和性に富み、軽量であり、適度な強度を有するチタン、チタン合金及びポーセレンの特徴を理解し、それらの鑄造製法を修得し、臨床応用法を身につける。</p> <p>【内容】 歯学演習Ⅰ：チタン精密鑄造法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温時および低温時のチタンおよびチタン合金の特徴を理解する。 ・チタンおよびチタン合金を鑄造の埋没材について理解し、埋没法を演習する。 ・チタンおよびチタン合金を融解する際の注意点を理解し、演習する。 ・チタンおよびチタン合金遠心鑄造法を演習する。 ・チタンおよびチタン合金の研磨法を演習する。 <p>歯学演習Ⅱ：セラミックインレー製法(IPS EmpressⅡ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーセレンの特徴を理解する。 ・IPS エンプレスⅡによるポーセレン鑄造修復物製法を理解し、演習する ・着色-----審美的、解剖的要求を満たすようレヤリング技法、ステイン技法を演習する ・接着システム-----修復物合着の際の歯面、修復物処理法について理解し、演習する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席およびレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 咬合機能再建学	授業担当者 (責任者に○)	○ 依田正信 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 3講時	場所	咬合機能再建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>目的 クラウン・ブリッジに関する研究遂行のために必要な基礎的研究手段を習得する以下の項目のうち、研究に必要な項目を抜粋して行う。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料試験法（静的試験、粘性測定 ほか） 2. 歯科材料の熱膨張・収縮の測定 3. 審美歯科材料の物性と色調測定 4. 3次元形状計測と3次元画像処理ソフトウェアの操作 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席とレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 予防歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小関 健由
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期木曜日 3 講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 予防歯科的な社会活動において、診療所を訪ねてくる患者とは違った意識の参加者に対する、適切な対応法と動機づけの手法を学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口臭測定法。(11月) ・地域における歯科保健活動に参加して、実情を理解し、実施の際の問題点や効果的な運用法を考察する。(9～3月) 		
テキスト・教材・参考書 等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 小児発達歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○福本 敏 他
単位数	2		
開講 曜日・講義	前期(6月) 後期(10月) 木曜日 3講時	場所	未定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 小児の成長発育における、歯の萌出・咬合の予測、摂食嚥下機能の評価をおこなうための手技を習得する。</p> <p>【内容】</p> <p>前期(6月) 歯の形成異常の診断法と発症頻度の理解 乳歯および混合歯列期の咬合評価と、永久歯列の予測</p> <p>後期(10月) 発育期における摂食嚥下機能評価 摂食嚥下機能に障害を示す疾患の特徴と、その対応について</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 顎口腔矯正学	授業担当者 (責任者に○)	○山本照子 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 5 講時	場所	顎口腔矯正学分野研究室 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】</p> <p>最近の歯科矯正学における矯正歯科治療並びに歯の移動に関連する最新の英語論文を読みこなし、分かり易く説明する能力、論文を客観的に評価する能力、研究内容を検討する能力、自らの診療・研究に資する情報を検索する能力を身に付けるとともに、さらにはEBM（根拠に基づいた医療）について理解する事を目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>歯科矯正学においてその診断・治療学並びに関連する領域の抄読会である。受講者は最新かつレベルの高い英語論文を担当し、その要約を作成して参加者に紹介する。特に、その論文で用いられた研究資料並びに研究方法の妥当性と、得られた結果に対する著者の解釈について考察し、その論文の基礎的・臨床的意義について考えをまとめて報告する。また、他の受講者が担当する際には、積極的に討論に加わって、歯科矯正学並びに矯正歯科治療に関連する研究能力を高める。</p>		
テキスト・教材・参考書等	毎回担当者が資料を作成・配布する。		
成績評価の方法	担当時の発表内容、レポート（論文要約）並びに出席率。		
備 考	受講希望者は予め責任者の山本と相談のこと。開催日時は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔障害科学	授業担当者 (責任者に○)	○五十嵐 薫 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 水曜日 5講時	場所	口腔障害科学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 咬合異常の診断と治療に関するコンセンサスと論争点について、英文抄読／輪読を通して理解を深めるとともに、論文を客観的に評価する能力を養う。</p> <p>【内容】 咬合異常に関連する領域の抄読／輪読会である。</p>		
テキスト・教材・参考書等	咬合異常に関する英文の教科書および英文雑誌論文（リスト配布）		
成績評価の方法	出席及びレポート（論文要約等）による。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 国際歯科保健学	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 木曜日 3講時	場所	国際歯科保健学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 客観的なデータに基づき、我が国の歯科医療・歯科保健の状況について把握することを目的とする。</p> <p>【内容】 国際的な観点からみた我が国の保健医療の指標について（担当：小坂） 国際的な観点からみた我が国の歯科保健医療の指標について（担当：小坂）</p>		
テキスト・教材・参考書等	Human Development Report 2005 UNDP		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔病理学	授業担当者 (責任者に○)	○熊本 裕行
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 金曜日 3講時	場所	口腔病理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 病理解剖症例についての観察実習を行い、全身的な疾病のあり方と口腔の関連について修得する。</p> <p>【内容】 病理解剖症例の肉眼像および組織標本を観察・検索することにより、各臓器における疾病の状態およびそれらの関連について検討する。また、疾病の口腔への影響について考察する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、討論などによる。		
備 考	開講時間・場所などは受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔診断学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野高嗣 阪本真弥 庄司憲明 飯久保正弘
単位数	2		
開講 曜日・講時	月曜～金曜 1, 2 講時	場所	主に東北大学病院口腔診断科外来
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 科学的根拠に基づいた知識と論理的な思考力をもとに、実際の臨床の場において口腔診断の進め方を習得する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MRI、CTおよびUSを中心とした顎口腔画像診断の実際について教授する。 ・口腔疾患の診断の進め方および治療方針立案の実際について教授する。 		
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology (4 rd Edition) (当分野製作)		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	講義は研修医と合同で行う。開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 顎顔面外科学	授業担当者 (責任者に○)	○川村 仁
単位数	2		
開講 曜日・講時	金曜 3講時	場所	顎顔面外科学分野 教室、病棟、外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 口腔顎顔面外科学発展の為の課題を抽出し、その解決のための研究計画の立案と実施についての理解を深める</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔顎顔面奇形・変形 2 口腔顎顔面外傷 3 顎癌説疾患 4 口腔粘膜疾患 5 口腔顎顔面領域の炎症 6 口腔顎顔面領域の腫瘍 7 創傷治癒 8 口腔顎顔面の再建 		
テキスト・教材・参考書等	適宜論文を提示する。		
成績評価の方法	出席態度&presentationと議論の質等を総合的に判定。		
備考	自ら種々の問題点を認識しその解決のための議論を深めることを期待する。講義時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 口腔外科学	授業担当者 (責任者に○)	○越後 成志 千葉 雅俊
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期(日時未定) 金曜日 3講時	場所	予定：口腔外科学分野医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>[目的]</p> <p>1. 新規骨再生材料を使用し動物実験した採取検体の組織学的検索、およびX線学的検索それらの観察による、より優れた骨再生材料開発への提言(顎口腔機能創建学分野との共同)動物実験法を含む。</p> <p>2. 顎関節症患者のMRI 所見と臨床所見との検討。</p> <p>[内容]</p> <p>各々、画像の読み方を習得し、正常像との所見の違いを判別できる能力を身に付ける。</p>		
テキスト・教材・参考書等	資料の観察、検討で知識を得る		
成績評価の方法	出席回数、ディスカッションの内容		
備 考	開講の場所は変わる可能性がある。		

授業科目	歯学演習 歯科口腔麻酔学	授業担当者 (責任者に○)	○正木 英二 城戸 幹太 水田健太郎	
単位数	2			
開講 曜日・講時	後期 金曜日 3講時	場所	臨床棟 4 階歯科麻酔疼痛管理課医局	
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科麻酔臨床の実際を演習する。</p> <p>【内容】 全身状態の術前評価（3週） 生体モニターの解釈（3週） 精神鎮静下歯科治療（3週） 全身麻酔の導入と維持（4週） 術後管理の実際（2週）</p>			
テキスト・教材・参考書等	特になし			
成績評価の方法	出席及びレポートによる。			
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。			

授業科目	歯学演習 顎口腔形態創建学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野 泰之 秋田 博敏 中村 恵
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める。	場所	基礎研究棟 1階セミナー室等
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯と骨および関連する組織の発生と修復に関して、研究の紹介等を通して最新の学術情報を多面的に把握することを目的とする。</p> <p>【内容】 歯学研究科教員または外部講師による研究の紹介等。歯学演習（顎口腔機能創建学）と共通。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及び発表に対する評価等による。		
備考	開講時間の相談のため、受講者は笹野まで連絡してください。		

授業科目	歯学演習 顎口腔機能創建学	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 治 穴田 貴久
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める	場所	基礎研究棟 1F セミナー室等
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 研究論文の輪読会を通じ、顎口腔組織ならびに生体の硬組織の形成・修復を学ぶとともに、再生・創建医歯学の研究方法、考え方、また、プレゼンテーションの方法を理解する（顎口腔形態創建学と共通）。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 硬組織に関する最新の論文の輪読 2. 組織再生工学の研究方法について 3. 研究の立案、進め方、纏め方について 4. 研究のプレゼンテーション方法について 5. 討論の仕方について 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及び発表に対する評価による。		
備考	開講時間・場所は受講者と相談の上、決める。		

授業科目	歯学演習 口腔腫瘍病態学	授業担当者 (責任者に○)	○田村眞理 加齢研基礎分野教授
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める	場所	加齢研セミナールーム
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 基礎生命科学研究のセミナーを聴講させ、最先端の研究内容を理解させる。</p> <p>【内容】 加齢研生化学セミナー： 加齢研の各基礎研究分野教授が最新の研究成果について 講演を行う。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 生体再生歯工学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鎌倉 慎治
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 1・2講時	場所	骨再生医工学研究室他
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】</p> <p>生体再生歯工学に関する頻引用あるいは最新の英語論文を読み、その要約を作成し、それらを判り易く解説する作業を行う。また自分自身の研究内容や進捗状況について発表報告する作業を行う。それらを通して論文から自らの研究に資する情報を得ること、研究内容を説明して討論する能力、自らの研究に資する論文を検索する能力を習得すること、発表や討論の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>生体再生歯工学およびそれらに関連する領域の抄読会である。</p> <p>自分自身の研究内容や進捗状況について発表報告する</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	レポート（論文要約）および発表で評価する。		
備考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

授業科目	歯学演習 難治疾患・口腔免疫学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小笠原 康悦 中山 勝文
単位数	2		
開講 曜日・講時	受講者と相談の上決定	場所	加齢医学研究所 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 自身の研究を遂行する上で必要な知識、研究手法を難治疾患、免疫学分野の研究論文やセミナーから学ぶことを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 難治疾患、免疫学領域の最先端の研究論文の紹介、発表 2. 指定するセミナーへの参加、討論 (指定するセミナーは事前に受講者に連絡する。) 		
テキスト・教材・参考書等	適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講日程、場所、内容は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔生化学	授業担当者 (責任者に○)	高橋 信博 ○佐藤 拓一 中條 和子 鷲尾 純平
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 月曜日 4・5講時	場所	基礎研究棟8階 口腔生化学分野研究室
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 主に口腔生化学分野での研究に従事する大学院生を対象に、口腔生化学（特に口腔生態系、口腔バイオフィルムおよび齲蝕・歯内疾患・歯周病・口臭症などの代表的口腔疾患）に関する研究を進める上で必要な実験技術を修得することを目的とする。</p> <p>【内容】 基本的な生化学的手法（分光光度法、酵素活性測定法、HPLC 分析法など）および分子生物学的手法（PCR 法、Cloning 法、Sequence 法など）に加え、口腔バイオフィルム研究手法（構成微生物分離・培養・同定法、生物活性測定法、酵素活性測定法など）、嫌気実験システム（嫌気ボックスなど）取り扱い手法を修得する。</p> <p>本実験技術トレーニングコースでは、原則として本分野での研究従事を前提としていることに留意すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ決定する。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 歯科薬理学	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 吉田 卓史 窪田 寿彦
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上 決定	場所	基礎研究棟5階 歯科薬理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 薬物や生理活性物質の作用、作用機序を理解するための実験手法としての分子生物学的、電気生理学的、薬理学的実験手法を習得し自らの研究を推進する。</p> <p>【内容】 哺乳動物由来の細胞培養、PCR法、クローニング法、シークエンス法、遺伝子導入法、パッチクランプ法、細胞内Ca²⁺濃度測定法の理論を理解した上でそれぞれの技術を習得する。また、酵素反応速度論の理解とそれに基づく濃度-反応関係のコンピューターを用いた解析方法を習得する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組で評価する。		
備 考			

授業科目	実験技術トレーニングコース (Ⅰ～Ⅲ) 口腔微生物学	授業担当者 (責任者に○)	○高田春比古 力石秀実 他
単位数	各2		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者と相談の上決定	場所	口腔微生物学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 微生物学・免疫学並びに関連する領域で必須の実験技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】 微生物学・免疫学並びに関連する領域の基本となる実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定する。ちなみに、口腔微生物学分野の研究に頻用される実験手技としては、各種細胞培養、ELISA 分析、RT-PCR、Real-time PCR、Western blotting、フローサイトメトリー、免疫染色、動物実験（主としてマウス）の各種技法 等がある。 コースは受講者のレベルによってⅠ～Ⅲの3段階が適宜開講される。原則として、1年目はⅠ、2年目はⅡ、3年目はⅢを受講することができる。3年間受講すれば、この分野の実験に必要な基本的手技は確実に身につく。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組を評価する。		
備 考	受講制限があるので、受講者は予め責任者の高田・力石と相談のこと		

授業科目	実験技術トレーニングコース 歯内歯周治療学	授業担当者 (責任者に○)	○島内 英俊 根本 英二 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者と 相談の上決定	場所	歯内歯周治療学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯内治療学・歯周治療学及びそれらに関連する領域で必須の実験技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】 歯内治療学・歯周治療学及びそれらに関連する領域の基本となる実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定するが、当分野では下記の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種細胞培養 ② ELISA 法 ③ RT-PCR 及び Real-time PCR ④ Western blotting ⑤ フローサイトメトリー ⑥ 動物実験（マウス及びラット）の各種技法 		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	実習への取組を評価する。		
備 考	受講制限があるので、受講者は予め責任者の島内と相談のこと		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔分子制御学	授業担当者 (責任者に○)	○菅原 俊二 黒石 智誠
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 月曜日4・5講時	場所	口腔分子制御学分野実験室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 ウェスタンブロット法の基礎を習熟し、研究に活用できる技術を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェスタンブロット法の基本原理を習熟する（担当：菅原） ・実際にウェスタンブロットを行い、技術を習得する（担当：黒石） ・研究への応用について討論する（担当：菅原、黒石） 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、実習およびレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更することもある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 総合診療学	授業担当者 (責任者に○)	○菊池 雅彦 下西 充 岩松 正明
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 月曜日 4・5講時	場所	総合歯科診療部医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科医学教育、とりわけ卒前・卒後の臨床歯科医学教育に関する理論と実践の方法について習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医学教育の歴史 2. 歯科医学教育の理論 3. 歯科医学教育の目標 4. 歯科医学教育の方法 5. 歯科医学教育の評価 		
テキスト・教材・参考書等	資料を配付する。		
成績評価の方法	レポート等による。		
備 考	開講時間・開講場所は別途通知する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔器官構造学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鈴木 敏彦 狩野 充浩
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 受講者と相談の上決定	場所	受講者と相談の上決定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 接触型三次元計測システムの取扱法について習得する。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接触型三次元計測システムの概略 2. 計測器の操作 3. データ解析用 CAD ソフトの操作 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席による。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔生理学	授業担当者 (責任者に○)	○林 治秀
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 4・5講時	場所	口腔生理研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 最近歯学研究にとっても重要性を増しているラット等動物を使用した in vivo の状態での神経生理学研究法について学ぶことを目的とする。特に体性感覚を中心とした感覚生理学研究法をとりあげる。</p> <p>【内容】 (1) 実験動物麻酔法－1－ (以下担当：戸田孝史) (2) 実験動物麻酔法－2－ (3) 金属記録電極作製法－1－ (4) 金属記録電極作製法－2－ (5) 金属記録電極作製法－3－ (6) 金属記録電極作製法－4－ (7) 動物標本作製法 (担当：林) (8) 末梢神経刺激法 (以下担当：戸田孝史) (9) 末梢神経記録法－1－ (10) 末梢神経記録法－2－ (11) 中枢神経刺激法 (以下担当：林) (12) 中枢神経記録法 (13) データ解析法 (14) 灌流固定法 (15) 組織切片作製法</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	動物実験は長時間に亘ることが多いので、開講時間は受講者と相談のうえ変更する。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔システム補綴学	授業担当者 (責任者に ○)	○佐々木 啓一 小川 徹 横山 政宣 埴 総司
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 火曜日 4・5講時	場所	口腔システム補綴学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 補綴歯科学に関わる研究を遂行するうえで必要となる実験手法を、実習を通して理解・修得し、研究に活用できる。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体内での力学的計測 (担当：佐々木 啓一) <ol style="list-style-type: none"> ① ストレインゲージ・圧トランスデューサによる計測 ② 歯冠内3次元力測定 ③ 義歯床下圧の測定 2. 骨シンチグラフィによる骨代謝活性の測定 (担当：横山 政宣) 3. 咀嚼・嚥下機能の計測 (担当：埴 総司) <ol style="list-style-type: none"> ① 筋電図 ② 舌運動 4. プロスペクティブ・クリニカル・スタディ (担当：小川 徹) 		
テキスト・教材・参考書等	講義において適宜、提示。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 加齢歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○ 服部 佳功 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 火曜日 3、4 講時	場所	加齢歯科学分野研究室 2
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 加齢歯科学の研究手法のうち顎口腔機能の評価に関わる下記内容の実験技術の習得を目的とし、ワークショップ形式のトレーニングを実施する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下顎運動の記録、分析、評価 ・ 筋電図の記録、分析、評価 ・ 咀嚼機能の記録、分析、評価 ・ 咬合状態の記録、分析、評価 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 歯科生体材料学	授業担当者 (責任者に○)	○高田 雄京 菊地 聖史 高橋 正敏
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期(5~9月)中または 後期(10月~3月)中の3日	場所	基礎研究棟5階 歯科生体材料学分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 走査型電子顕微鏡による試料観察方法、電子線マイクロアナライザーによる元素分析方法の研究技術を研究テーマに合わせてトレーニングする。</p> <p>【内容】 走査型電子顕微鏡の原理 試料の作製 観察方法 研究試料の観察</p> <p>電子線マイクロアナライザーの原理 試料の作製 元素分析方法 定性分析 定量分析 マッピング分析</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	歯学演習（歯科生体材料）と共に受講すること。 開講日は受講者と相談の上決める。開講日には終日出席が可能なこと。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 歯科保存学	授業担当者 (責任者に○)	小松正志 ○笹崎弘己
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 4, 5 講時	場所	歯科保存学分野 4 研
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>(目的) レジンやインレー修復物の臨床成績を評価する上で重要な、臨床例のレプリカを製作し、走査型電子顕微鏡にて観察し評価する方法を修得する。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> レプリカの製作 レプリカ製作に必要な材料の特性と臨床におけるレプリカ製作の手順を講義した後、レプリカ製作を実習する。 走査型電子顕微鏡の使用法の習得 走査型電子顕微鏡の使用法、メンテナンス法を実習する。 走査型電子顕微鏡によるレプリカ試料の観察 走査型電子顕微鏡にてレプリカ試料を観察し、評価法を実習する。 		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更することがある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 咬合機能再建学	授業担当者 (責任者に○)	○依田正信 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 水曜日 4, 5講時	場所	咬合機能再建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>目的 クラウン・ブリッジに関する研究遂行のために必要な基礎的研究手段を習得する。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料試験法 静的試験・・・圧縮試験を用いた強度試験 粘性特定・・・回転粘度計を用いた計測 表面計測・・・表面粗さ計を用いた粗さ計測 2. 次元画像処理ソフトウェアの操作 3次元形状計測値を用いて、3次元形状計測・表示を行う 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席とレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 予防歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○小関 健由 田浦 勝彦
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期木曜日 4、5講時	場所	開始時に指定
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 予防歯科学を理解する上で重要な実験手法や臨床的手技を学び、実験に対する基本的な考え方を理解する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期う蝕の診断法 ・ 環境の測定法 ・ 大気汚染の測定法 ・ 水の環境衛生面の測定法 ・ 生体測定 (1月 小関教授) ・ 歯口清掃法 ・ 口腔診査法 ・ フッ化物の応用法 ・ 齶蝕活動性試験と出血試験 ・ 歯周疾患の診査法 ・ 歯石除去法 ・ 機械的歯面清掃法 (6月 小関教授) 		
テキスト・教材・参考書 等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニング 小児発達歯科学	授業担当者 (責任者に○)	○福本 敏 他
単位数	1		
開講 曜日・講義	前期(6月) 後期(10月) 木曜日 4・5講時	場所	未定
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 歯の再生研究を実施するための、エナメル芽細胞、象牙芽細胞の分化誘導技術の習得を行う。</p> <p>【内容】 歯原性上皮細胞株の増殖因子を用いた分化誘導とその評価 歯髄幹細胞を用いた神経細胞、象牙芽細胞、脂肪細胞への分化誘導 乳歯からの歯髄細胞培養 歯由来細胞の分化評価のための歯特異的遺伝子の発現スクリーニング</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 顎口腔矯正学	授業担当者 (責任者に○)	○山本照子 他
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間については受講者と 相談の上決定	場所	顎口腔矯正学分野研究室 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】</p> <p>歯科矯正学に関連する領域で必須の検査・分析方法を習得すること、並びに、矯正治療に伴う生体反応についての基盤的研究を遂行する為の基本的な技術を体得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <p>歯科矯正学及びそれに関連する領域の基本となる検査・分析・実験技術をマンツーマンで学習する。授業内容は受講者と相談して決定するが、当分野では下記の内容を予定している。なお修士課程は博士課程と同時開講とし、基本技術と理論を習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種細胞培養（歯根膜・骨系細胞他） ② 動物実験（マウス、ラット、イヌ等）の各種技法 ③ in situ hybridization 法 ④ 免疫組織学 ⑤ コンフォーカル顕微鏡観察 ⑥ 各種矯正診断資料採得 ⑦ セファロ分析実習 ⑧ 顎運動の3次元測定と解析 ⑨ 医療統計解析入門 ⑩ 医療統計解析応用 		
テキスト・教材・参考書等	セミナーでは適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	受講者は受講計画に関して予め責任者の山本と相談のこと。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔障害科学	授業担当者 (責任者に○)	○五十嵐 薫 他								
単位数	2										
開講 曜日・講時	後期 木曜日 4・5講時	場所	口腔障害科学分野研究室								
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯根膜、骨、軟骨、骨髄などに由来する細胞の各種培養法を中心に基本的な培養実験技術を習得する。</p> <p>【内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 歯根膜細胞の培養</td> <td>(担当：宮川 彩 他)</td> </tr> <tr> <td>2. 骨芽細胞の培養</td> <td>(担当：春山 直人 他)</td> </tr> <tr> <td>3. 軟骨細胞の培養</td> <td>(担当：春山 直人 他)</td> </tr> <tr> <td>4. その他の細胞の培養</td> <td>(担当：五十嵐 薫 他)</td> </tr> </table>			1. 歯根膜細胞の培養	(担当：宮川 彩 他)	2. 骨芽細胞の培養	(担当：春山 直人 他)	3. 軟骨細胞の培養	(担当：春山 直人 他)	4. その他の細胞の培養	(担当：五十嵐 薫 他)
1. 歯根膜細胞の培養	(担当：宮川 彩 他)										
2. 骨芽細胞の培養	(担当：春山 直人 他)										
3. 軟骨細胞の培養	(担当：春山 直人 他)										
4. その他の細胞の培養	(担当：五十嵐 薫 他)										
テキスト・教材・参考書等	硬組織研究ハンドブック (MDU 出版会)、バイオ実験イラストレイテッド 6 すくすく育て 細胞培養 (秀潤社)										
成績評価の方法	出席及びレポートによる。										
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。										

授業科目	実験技術トレーニングコース 国際歯科保健学	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 木曜日 4・5講時	場所	国際歯科保健学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 開発途上国における国際保健医療分野や地域での歯科保健分野における協力方法について、プロジェクト（仮想）を用いて実際に計画立案及びその評価を行い、基本的な方法について実体験する。</p> <p>【内容】 開発途上国での保健医療協力プロジェクトの計画立案方法について（担当：小坂） 開発途上国での保健医療協力プロジェクトの評価方法について（担当：小坂）</p>		
テキスト・教材・参考書等	PCM手法の理論と活用 国際開発高等教育機構 保健医療プログラムの経済的評価法 篠原出版		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔病理学	授業担当者 (責任者に○)	○熊本 裕行
単位数	2		
開講 曜日・講時	前期 金曜日 4・5 講時	場所	口腔病理学教室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 形態学的検索法の基本である組織標本の作製をはじめ、特殊染色・免疫染色などを修得する。また、同材料を用いた分子医学的検索についても概説する。</p> <p>【内容】 固定・包埋・薄切・染色など基本的な組織標本作製を実習する。また、HE 以外の特殊染色や免疫染色についても見学・標本観察を通して、その意義について教授する。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席、討論などによる。		
備 考	開講時間・場所などは受講者と相談の上、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニング 口腔診断学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野高嗣 阪本真弥 庄司憲明 飯久保正弘
単位数	2		
開講 曜日・講時	月曜日～金曜日 1, 2 講時	場所	主に東北大学病院口腔診断科外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもとにした口腔診断の進め方について臨床の場で体得する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エックス線 CT 画像検査の実際について体得する (画像診断学的知識が必要)。 ・口腔顔面痛に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・味覚障害に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・口腔乾燥症に関する診断の実際について体得する (生理学的知識が必要)。 ・口腔粘膜疾患に関する診断の実際について体得する (免疫学的知識が必要)。 		
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology (4 rd Edition) (当分野製作)		
成績評価の方法	出席、態度及びレポートによる。		
備 考	外来演習の際には清潔な白衣着用のこと。 開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 顎顔面外科学	授業担当者 (責任者に○)	○川村 仁
単位数	2		
開講 曜日・講時	金曜 4.5講時	場所	顎顔面外科学分野 教室、病棟、外来
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 計画立案した実験を実施するにあたっての技術について理解を深め習得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔顎顔面臨床の統計学 2 口腔顎顔面領域の骨性治癒実験 3 口腔顎顔面組織延長実験 4 口腔顎顔面領域の組織再生実験 5 インプラント体と生体組織界面観察実験 6 口腔顎顔面領域の腫瘍制御実験 		
テキスト・教材・参考書等	適宜論文を提示する。		
成績評価の方法	出席態度&presentationと議論の質等を総合的に判定。		
備考	自ら種々の問題点を認識しその解決のための議論を深めることを期待する。講義時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔外科学	授業担当者 (責任者に○)	○越後 成志 君塚 哲 森川 秀広 橋元 亘
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期(日時未定) 金曜日 4・5講時	場所	予定：口腔外科学分野医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>[目的] 口腔外科学分野で行っている研究に関し、必要な技術の習得を目的とする。</p> <p>[内容] 悪性腫瘍の凍結切片の作り方。 その他</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜指導する		
成績評価の方法	出席回数、実技習得度		
備 考	特になし		

授業科目	実験技術トレーニングコース 歯科口腔麻酔学	授業担当者 (責任者に○)	○正木 英二 城戸 幹太 水田健太郎
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 金曜日 4・5講時	場所	臨床棟 4 階歯科麻酔疼痛管理課医局
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯科麻酔科領域における研究の立案と実施方法を学ぶ。</p> <p>【内容】</p> <p>麻酔科領域の基礎研究（5週）</p> <p>研究対象の選択 研究方法の選択と立案 研究の評価</p> <p>麻酔科領域の臨床研究（5週）</p> <p>研究対象の選択 研究方法の選択と立案 研究の評価</p> <p>医学統計の選択と実施法（3週）</p> <p>研究プレゼンテーションの方法（2週）</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 顎口腔形態創建学	授業担当者 (責任者に○)	○笹野 泰之 秋田 博敏 中村 恵
単位数	2		
開講 曜日・講時	受講者と相談の上、決める。	場所	顎口腔形態創建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 歯と骨および関連する組織の発生と修復の研究に際して利用する研究技術の研修を目的とする。</p> <p>【内容】 動物実験、RT-PCR、in situ hybridization、免疫染色、電子顕微鏡観察、マイクロCT 観察等の実験技術の研修。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポート等による。		
備 考	実施日時の相談のため、受講者は笹野まで連絡してください。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 顎口腔機能創建学	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 治 穴田 貴久
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める。	場所	顎口腔機能創建学分野研究室
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 硬組織再生で用いられる生体機能材料の設計方法、幹細胞の取り扱いおよび評価方法を、実験を通じて理解することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒドロキシアパタイト (HA) の操作方法 2. リン酸オクタカルシウム (OCP) の操作方法 3. 吸収性高分子の操作方法 4. 無機物の X 線回折および FTIR による結晶相の同定法 5. 幹細胞と生体機能材料の評価方法 6. 大腸菌・動物細胞への遺伝子導入方法 7. 動物実験手法 		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔腫瘍病態学	授業担当者 (責任者に○)	○田村眞理 小林孝安
単位数	2		
開講 曜日・講時	開講時間は受講者と相談の上、 決める。	場所	加齢研遺伝子情報研究分野
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 分子細胞生物学の基礎技術を習得させることを目的とする。</p> <p>【内容】 分子細胞生物学基礎技術トレーニングコース</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備考	開講時間は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 生体再生歯工学	授業担当者 (責任者に○)	○ 鎌倉 慎治
単位数	2		
開講 曜日・講時	後期 月曜3・4講時	場所	骨再生医工学研究室他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 ラット等実験動物の組織内に生体材料を埋入する手法を通して生体再生歯工学およびそれらに関連する領域の基本的な研究技術を習得することを目的とする。</p> <p>【内容】 実験動物を用いた生体材料の組織内埋入法、灌流固定法、硬組織標本作製法・染色法および形態組織計測法について基本的な実験技術を学ぶ。</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講時間・場所は受講者と相談のうえ変更する場合がある。 受講希望者は予め医学系研究科附属動物実験施設による教育訓練を受講しておくこと。 受講制限があるので受講者は予め責任者の鎌倉と相談のこと。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 難治疾患・口腔免疫学	授業担当者 (責任者に○)	○ 小笠原 康悦 中山 勝文
単位数	2		
開講 曜日・講時	受講者と相談の上決定	場所	加齢医学研究所 他
授 業 の 目 的 及 び 内 容	<p>【目的】 免疫学、分子生物学の理論を利用した実験を遂行する上で必要となる手法を実習を通して理解し、修得することを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞免疫学的手法 2. 分子生物・免疫学的手法 3. 高度最先端研究手法 <p>本トレーニングでは、原則として本分野の研究従事を前提としていることに留意すること。</p>		
テキスト・教材・参考書等	適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席及びレポートによる。		
備 考	開講日程、内容は受講者と相談のうえ、変更する場合がある。		

授業科目	実験技術トレーニングコース 口腔がん健診特別研修	授業担当者 (責任者に○)	小関 健由 笹野 高嗣 越後 成志 川村 仁 ○熊本 裕行
単位数	1		
開講 曜日・講時	後日連絡	場所	後日連絡
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 口腔癌は癌全体の 1-2%を占め、その多くは内視鏡の必要もなく、肉眼で初期病変を直接観察できるために発見しやすい。しかしながら、口腔がんと類似した所見を呈する他の粘膜疾患があり、鑑別診断は重要である。この正確ながんの診断能力を有する歯科医師が、市町村の実施する住民歯科健診や職場の歯科健診時に的確に診断すれば、初期症例としてのがんを発見するチャンスが現状よりも増大するはずである。このコースは、あらゆる分野で活躍する歯科医師のリカレント・コースとして、がん早期発見を正確に担いうる歯科医師を養成し、日々の臨床と歯科健診等に役立ててもらふことを目的とする。口腔がんの早期発見を修得する本コースでは、歯科医師の医療への貢献を高めると共に、患者が安心して受診できるかかりつけ歯科医師を養成する。さらに、大学病院にて研修することにより、病診連携として大学病院とのつながりも深くなり、がん患者にやさしい地域の基盤を形成する。</p> <p>【内容】 (1) がんの生物学的特性と臨床腫瘍学特論 (2) がん患者の口腔内の特殊性と合併症 (3) 粘膜疾患診断特論 (4) 粘膜疾患診断手法実習 (5) がん・粘膜疾患症例カンファレンス</p>		
テキスト・教材・参考書等	開講時に指示する。		
成績評価の方法	講義への出席などによる。		
備 考	本コースは、東北がんプロフェッショナル養成プランに基づくインテンシブ・コースとして定員を40名とし、歯科健康診査に関わる歯科医師に対して公開講義とする。		

授業科目	博士論文特別研修 大学院研究基礎論	授業担当者 (責任者に○)	○若森 実 佐々木啓一 高橋 信博 鈴木 治 市川 博之 福本 敏 菅原 俊二 吉武 清實 安田 浩康
単位数	1年次必修とし、博士論文特別研修(1年次1単位)に含む		
開講 曜日・講時	1年次前期 月曜日 3、4、5講時	場所	A3講義室
授業の 目的 及び 内容	<p>【目的】 大学院生として研究を行う上で知っておくべき基本的事項を学ぶ。</p> <p>【内容】 5月9日(月) はじめに：大学院研究基礎論のGIO・SBO(若森) 1. 研究の作法：研究とは(佐々木) 2. 大学院生の作法：大学院で学ぶということ(高橋) 3. 大学院から始まるキャリアパス(若森)</p> <p>5月16日(月) 4. 研究事始め： (1) 研究倫理(鈴木) (2) 試薬の管理、廃液の管理(市川) (3) 遺伝子組み換え実験及び動物実験(福本) (4) RI実験(菅原)</p> <p>5月23日(月) 5. ハラスメント(吉武) 6. 臨床研究倫理(安田)</p>		
テキスト・教材・参考書等	特になし。		
成績評価の方法	出席・レポートによる。 但し、社会人大学院生はISTU受講を認める。		
備考	講義の順番は変更する場合がある。		

10. 歯学部・歯学研究科教員名簿

(ダイヤルイン 022-717-□□□□)

学部長・研究科長 佐々木 啓一

口腔生物学講座

口腔生化学分野 (8295)	歯内歯周治療学分野 (8336)
教授 高橋 信博	教授 島内 英俊
講師 佐藤 拓一	准教授 根本 英二
助教 中條 和子	助教 遠藤 英昭
〃 鷺尾 純平	〃 八巻 恵子
	〃 荘司 佳奈子
歯科薬理学分野 (8311)	<歯周病科・歯内療法科>
教授 若森 実	講師 玉澤 かほる
助教 吉田 卓史	〃 庄司 茂
〃 窪田 寿彦	助教 井川 資英
	〃 石幡 浩志
口腔微生物学分野 (8306)	口腔分子制御学分野 (8321)
教授 高田 春比古	教授 菅原 俊二
准教授 力石 秀実	助教 黒石 智誠

口腔機能形態学講座

口腔器官構造学分野 (8283)	口腔システム補綴学分野 (8369)
教授 市川 博之	教授 佐々木 啓一
助教 鈴木 敏彦	助教 横山 政宣
	〃 羽鳥 弘毅
	〃 依田 信裕
口腔生理学分野 (8292)	<咬合回復科>
教授 林 治秀	講師 小川 徹
准教授 戸田 孝史	助教 佐々木 具文
講師 三木 美麗	〃 塙 総司
助教 工藤 忠明	臨床助教 折居 雄介

加齢歯科学分野 (8395)

准教授 服部 佳功
助教 土谷 昌広
" 大井 孝子
" 小嶺 祐子

<高齢者歯科治療部>

准教授 坪井 明人
助教 佐藤 智昭
" 山口 哲史

口腔修復学講座

歯科生体材料学分野 (8317)

准教授 高田 雄京
助教 菊地 聖史
" 高橋 正敏

咬合機能再建学分野 (8363)

准教授 依田 正信
助教 石橋 実
" 菅野 太郎

歯科保存学分野 (8343)

教授 小松 正志
助教 佐藤 秀樹
" 兼平 正史
" 小林 洋子

<咬合修復科>

講師 笠原 紳
助教 奥山 弥生
" 林 栄成
" 泉 田 明男

<保存修復科>

講師 笹崎 弘己
" 遠藤 達雄

口腔保健発育学講座

予防歯科学分野 (8327)

教授 小関 健由
助教 齋藤 恵一
" 井川 恭子
" 細川 亮一

<予防歯科>

講師 田浦 勝彦
助教 丹田 奈緒子

小児発達歯科学分野 (8382)

教授 福本 敏
 准教授 中村 卓史
 助教 小松 偉二
 " 丸谷 由里子
 " 山田 亜矢

<小児歯科>

講師 門馬 祐子
 助教 岩本 勉
 " 福本 恵美子

顎口腔矯正学分野 (8374)

教授 山本 照子
 准教授 出口 徹
 助教 竹下 信郎
 " 池田 悦子
 研究助教 清流 正弘

<矯正歯科>

講師 北浦 英樹
 " 福永 智広
 助教 菅崎 弘幸
 " 橋本 隆志

口腔障害科学分野 (8277)

教授 五十嵐 薫
 助教 西村 真

<咬合機能成育室>

国際歯科保健学分野 (7638)

教授 小坂 健
 助教 相田 潤

口腔病態外科学講座

口腔病理学分野 (8303)

教授 熊本 裕行
 助教 清水 良央
 " 三木 康宏

口腔診断学分野 (8390)

教授 笹野 高嗣
 講師 飯久保 正弘
 助教 古内 壽
 " 佐藤 しづ子
 研究助教 小嶋 郁穂

<口腔診断科>

講師 阪本 真弥
 " 庄司 憲明
 助教 菅原 由美子

顎顔面外科学分野 (8350)

教授 川村 仁
 講師 長坂 浩
 助教 佐藤 実
 研究助教 栗原 淳

<顎顔面外科>

講師 佐藤 修一
 " 森 士朗
 助教 後藤 哲
 " 宮下 仁

口腔外科学分野 (8358)

教授 越後 成志
 講師 下田 元
 助教 君塚 哲
 " 森川 秀
 " 松井 桂子

<口腔外科>

講師 千 葉 雅 俊
助教 廣 谷 拓 章
" 橋 元 亘
" 篠 原 文 明

歯科口腔麻酔学分野 (8420)

教授 正 木 英 二
助教 水 田 健 太 郎
" 的 場 あ つ 子
<歯科麻酔疼痛管理科>
助教 城 戸 幹 太
臨床助教 安 田 真

顎口腔創建学講座

顎口腔形態創建学分野 (8287)

教授 笹 野 泰 之
助教 秋 田 博 敏
" 中 村 恵

顎口腔機能創建学分野 (7635)

教授 鈴 木 治 久
助教 穴 田 貴

歯学イノベーションリエゾンセンター

准教授 金 高 弘 恭
助教 洪 光

口腔病態外科学講座 (協力講座)

口腔腫瘍病態学分野

教授 田 村 眞 理 (加齢医学研究所)

難治疾患・口腔免疫学講座 (協力講座)

難治疾患・口腔免疫学分野

教授 小 笠 原 康 悦 (加齢医学研究所)

新生体素材学講座（協力講座）

生体融合素材学分野

教授 後藤 孝 （金属材料研究所）

生体機能素材学分野

教授 新家 光雄 （金属材料研究所）

生体再生歯工学講座（協力講座）

生体再生歯工学分野 (8235)

教授 鎌倉 慎治 （医工学研究科）

口腔ケア推進開発（寄附講座）

口腔ケア推進開発

教授 濱田 泰三

生体適合性計測工学講座（寄附講座）

生体適合性計測工学講座

教授 庭野 吉己
助教 中村 圭祐

次世代歯科材料工学講座（寄附講座）

次世代歯科材料工学講座

助教 赤塚 亮

免疫口腔病態制御学講座（連携講座）

口腔免疫病態制御学講座

客員教授 高 木 智 （国立国際医療センター研究所）

長寿口腔科学講座（連携講座）

長寿口腔科学講座

客員教授 松 下 健 二 （国立長寿医療センター研究所）

客員教授 新 飯 田 俊 平 （ ” ” ）

その他（各種事業関係教員）

研究助教 真 柳 弦 （生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業）

” 本 田 義 知 （ ” ” ）

” 白 石 成 （ ” ” ）

東北大学病院歯科診療部門

<顎口腔機能治療部>

臨床助教 中 條 哲

<総合歯科診療部>

教 授 菊 池 雅 彦

助 教 下 西 充

” 岩 松 正 明

<障害者歯科治療部>

講 師 猪 狩 和 子

助 教 高 橋 温

<感染予防対策治療部>（クリーン歯科治療部）

准教授 玉 澤 佳 純

<顎顔面口腔再建治療部>

准教授 小 山 重 人

1 1. 歯学部・歯学研究科学生相談室

歯学部・歯学研究科では、学部学生および大学院学生を対象として学生の抱える問題に対処すべく「学生相談室」を設けております。勉学，進路，生活に関することはもとより，宗教団体への強制勧誘，セクシュアルハラスメント等々，相談に応じ，必要があればしかるべきサービスや専門家の紹介もいたしますのでできるだけ早く相談してください。

相談内容は秘密事項として扱われますが，相談室のみでは解決できない事柄の場合，相談者の了承のもとに関連する教員や委員会等と協議することがあります。

相談時間：担当委員と相談者の都合により随時行います。

受 付：教務係(電話 022-717-8248 ; e-mail: den-kyom@bureau.tohoku.ac.jp)

相 談 員：[学部学生] 学部教務委員会委員長，学年担当教務委員，学生支援専門委員会委員長
[大学院生] 大学院教務委員会委員長

12. 歯学部・歯学研究科教員(講師以上)オフィスアワー

口腔生物学講座	口腔生化学分野	教授	高橋 信博	月曜日	16時	～	17時
		講師	佐藤 拓一	火曜日	16時	～	17時
	歯科薬理学分野	教授	若森 実	木曜日	17時	～	18時
	口腔微生物学分野	教授	高田 春比古	木曜日	15時	～	16時
		准教授	力石 秀実	水曜日	16時	～	17時
	歯内歯周治療学分野 (歯周病科)	教授	島内 英俊	火曜日	15時	～	17時
		准教授	根本 英二	月曜日	16時	～	17時
		講師	玉澤 かほる	火曜日	15時	～	16時
		講師	庄司 茂	火曜日	15時	～	16時
	口腔分子制御学分野	教授	菅原 俊二	月曜日	16時	～	17時
口腔機能形態学講座	口腔器官構造学分野	教授	市川 博之	火曜日	16時	～	17時
	口腔生理学分野	教授	林 治秀	火曜日	16時	～	17時
		准教授	戸田 孝史	火曜日	16時	～	17時
		講師	三木 美麗	木曜日	16時	～	17時
	口腔システム補綴学分野 (咬合回復科)	教授	佐々木 啓一	月曜日	16時	～	17時
		講師	小川 徹	金曜日	16時	～	17時
	加齢歯科学分野	准教授	服部 佳功	木曜日	16時	～	17時
口腔修復学講座	歯科生体材料学分野	准教授	高田 雄京	火曜日	16時	～	17時
	歯科保存学分野 (保存修復科)	教授	小松 正志	月曜日	16時	～	17時
		講師	笹崎 弘己	水曜日	16時	～	17時
		講師	遠藤 達雄	水曜日	16時	～	17時
	咬合機能回復科分野 (咬合修復科)	准教授	依田 正信	金曜日	16時	～	17時
口腔保健発育学講座	予防歯科学分野 (予防歯科)	教授	小関 健由	火曜日	15時	～	16時
		講師	田浦 勝彦	木曜日	16時	～	17時
	小児発達歯科学分野 (小児歯科)	教授	福本 敏	火曜日	16時	～	17時
		講師	門馬 祐子	火曜日	11時	～	12時
	顎口腔矯正学分野 (矯正歯科)	教授	山本 照子	木曜日	16時	～	17時
		准教授	出口 徹	水曜日	16時	～	17時
		講師	北浦 英樹	月曜日	16時	～	17時
		講師	福永 智広	火曜日	16時	～	17時
	口腔障害科学分野	教授	五十嵐 薫	金曜日	16時	～	17時
	国際歯科保健学分野	教授	小坂 健	木曜日	16時	～	17時

口腔病態外科学講座	口腔病理学分野	教授	熊本 裕行	月曜日 16時 ~ 17時
	口腔診断学分野	教授	笹野 高嗣	月曜日 16時 ~ 17時 火曜日 16時 ~ 17時
	(口腔診断科)	講師 講師 講師	飯久保 正弘 阪本 真弥 庄司 憲明	月曜日 16時 ~ 17時 火曜日 15時 ~ 16時 水曜日 16時 ~ 17時
	顎顔面外科学分野	教授	川村 仁	水曜日 16時 ~ 17時 (教授会開催日除く)
	(顎顔面外科)	講師 講師 講師	長坂 浩 佐藤 修一 森 士朗	金曜日 16時 ~ 17時 水曜日 16時 ~ 17時 月曜日 16時 ~ 17時
	口腔外科学分野	教授	越後 成志	月曜日 15時 ~ 16時
	(口腔外科)	講師 講師	下田 元 千葉 雅俊	月曜日 16時 ~ 17時 金曜日 16時 ~ 17時
	歯科口腔麻酔学分野	教授	正木 英二	月曜日 13時 ~ 17時
顎口腔創建学講座	顎口腔形態創建学分野	教授	笹野 泰之	金曜日 18時 ~ 19時
	顎口腔機能創建学分野	教授	鈴木 治	火曜日 16時 ~ 17時
口腔腫瘍病態学 (協力講座)	口腔腫瘍病態学分野	教授	田村 眞理	月曜日 11時 ~ 12時 (事前に連絡要)
難治疾患・口腔免疫学 (協力講座)	難治疾患・口腔免疫学分野	教授	小笠原 康悦	月曜日～金曜日 16時 ~ 17時 (事前に連絡要)
新生体素材学 (協力講座)	生体融合素材学分野	教授	後藤 孝	(未定)
	生体機能素材学分野	教授	新家 光雄	月曜日 16時 ~ 17時
生体再生歯工学 (協力講座)	生体再生歯工学分野	教授	鎌倉 慎治	木曜日 16時 ~ 17時
大学病院	顎口腔機能治療部			
	障害者歯科治療部	講師	猪狩 和子	月曜日 16時 ~ 17時
	高齢者歯科治療部	准教授	坪井 明人	水曜日 16時 ~ 17時
	総合歯科診療部	教授	菊池 雅彦	月曜日 16時 ~ 17時
	感染予防対策治療部	准教授	玉澤 佳純	月曜日 13時 ~ 14時
	顎顔面口腔再建治療部	准教授	小山 重人	木曜日 16時 ~ 17時

13. 歯学部・歯学研究科建物案内

基礎研究棟（A棟）

8階	口腔生化学分野、口腔分子制御学分野、A 8 セミナー室、共同研究室（放射線同位元素実験室）
7階	口腔病理学分野、口腔微生物学分野
6階	口腔器官構造学分野、顎口腔形態創建学分野
5階	歯科薬理学分野、歯科生体材料学分野
4階	口腔生理学分野、国際歯科保健学分野、A 4 実習室（歯科薬理、口腔生理）
3階	A 3 講義室、A 3 実習室（口腔生化、口腔微生物）、附属歯科技工士学校
2階	事務室、会議室、図書室
1階	A 1 講義室、A 1 セミナー室、学生ロッカー室
地階	機械室、学生ロッカー室

実習講義棟（B棟）

4階	B 4 講義室、B 4 実習室、B 4 準備室、B 4 セミナー室
3階	B 3 講義室、B 3 実習室、B 3 準備室（1）、B 3 準備室（2）、B 3 セミナー室
2階	B 2 講義室、B 2 実習室、組織準備室、病理準備室、理工測定室、B 2 セミナー室
1階	B 1 講義室、B 1 実習室、実習準備室、暗室、X線室、教員控室、処置室、ホール

臨床研究棟（C棟）

8階	口腔診断学分野、加齢歯科学分野、口腔システム補綴学分野
7階	顎口腔矯正学分野、咬合機能再建学分野
6階	歯科保存学分野、歯内歯周治療学分野、顎顔面外科学分野
5階	予防歯科学分野、歯科口腔麻酔学分野、口腔外科学分野
4階	(改 修 中)
3階	
2階	
1階	
地階	

加齢医学研究所棟

4階	顎口腔機能創建学分野、共同実験施設
----	-------------------

